

もっといい明日が見えてくる - Letters from Gnoble

保存版

Gno G-let

グノレット

vol.19

2017年6月発行

東大合格

特集号

医学部合格者
インタビュー併載



グノブルを活かし、最大の効果を上げるヒント満載。
11期生の合格者インタビュー特集。

 **Gnoble** GROUP

11期生 合格者インタビュー

- 東京大学 **文系** P1-14
- 東京大学 **理系** P15-32
- 国公立・私立大学 **医学部** P33-47

2017年東京大学・医学部合格者インタビューをお届けします。

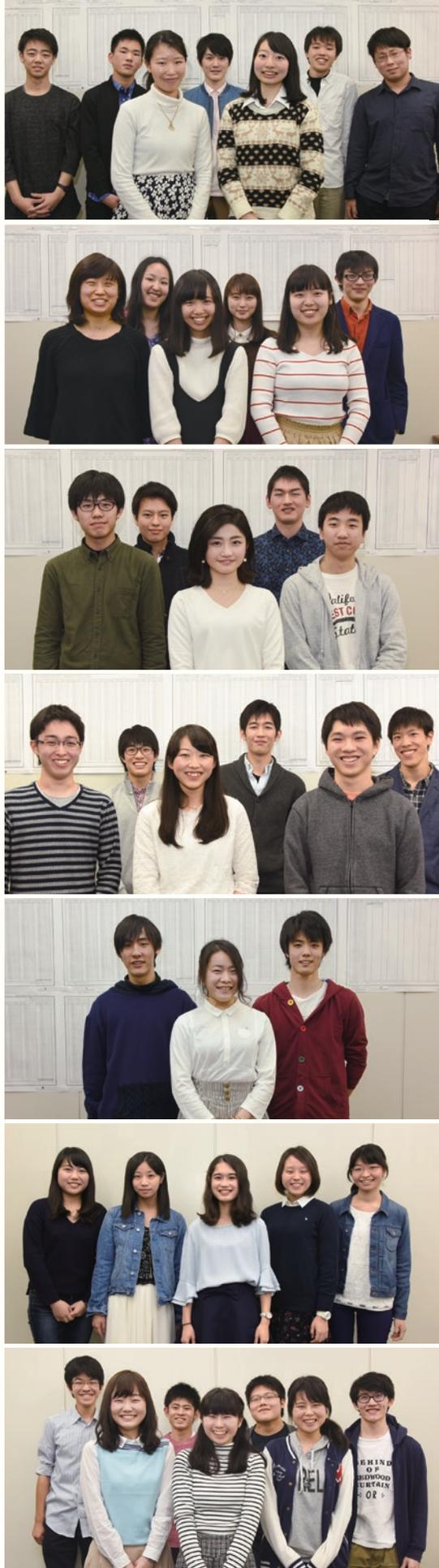
膨大な情報量になっていますが、グノーブルを活かして最大の効果を上げるためのヒントがぎっしり詰まっていると思います。これから大学受験をされる皆さんには、マーカー類を片手に、気になる発言や参考になりそうな箇所に印をつけながら全編に目を通すことをお勧めします。

勉強を進めていくときに大切なことは、先輩の体験や先生の助言を参考にしながら、徐々に自分に合った勉強法を確立していくことです。このグノレットの中に、お手本にできることがあれば、ぜひ、お試しください。

また、勉強に行き詰まったり、気持ちが折れそうになったり、迷いが生じることもあるでしょう。そんなときには、改めてこのグノレットを開いて先輩たちの声に耳を傾けてみてください。きっと勇気もらえると思います。

2017年6月 グノレット編集部

※なお、各インタビューの内容は抜粋版です。グノーブル・ホームページにおいてフルバージョンをお読みいただけます。詳細は各インタビューページの冒頭でご確認ください。



11期生 合格者インタビュー

東京大学

文系

【座談会出席者】(五十音順、本文中敬称略)

Part 1



おおみや ゆうか
大宮 優香さん
(文I・日比谷)



くまがい たかえ
熊谷 姿慧さん
(文I・桜蔭)



しらいし まさひろ
白石 昌大さん
(文II・芝)



ながい たかひこ
長井 孝彦さん
(文II・海城)



なかじま れお
中島 礼朗さん
(文II・栄光学園)



にのみや ようじろう
二宮 陽二郎さん
(文III・麻布)



ふじかわ つかさ
藤川 司さん
(文I・海城)

Part 2



あびこ けん
安彦 賢さん
(文III・麻布)



おだ まゆこ
小田 麻優子さん
(文I・鷗友学園女子)



しばた ななこ
柴田 菜々子さん
(文II・光塩女子学院)



なかがわ ゆい
中川 唯さん
(文II・日比谷)



ほり さやか
堀 雅さん
(文III・桜蔭)



むらやま りさ
村山 莉咲さん
(文III・吉祥女子)

11期生 合格者インタビュー

東京大学 文系

— Part 1 —

おおみや ゆうか 大宮 優香さん (文I・日比谷)	なかじま れお 中島 礼朗さん (文II・栄光学園)
くまがい たかえ 熊谷 姿慧さん (文I・桜蔭)	にのみや ようじろう 二宮 陽二郎さん (文III・麻布)
しらishi まさひろ 白石 昌大さん (文II・芝)	ふじかわ つかさ 藤川 司さん (文I・海城)
ながい たかひこ 長井 孝彦さん (文II・海城)	

●PDFフルバージョンでは、「グノーブルの評判」、「グノーブルの英語」、「後輩へのメッセージ」もお読みいただけます。
www.gnoble.com/gnolet19/



グノは、集中力を保って主体的に聞ける授業だったのですごく気に入っていました。授業は先生が生徒とやり取りしながら、私たちが巻き込んで進んでいくので、自分が参加していると実感できました。

熊谷 姿慧さん (文I・桜蔭)

入塾のきっかけ

藤川：僕は中1から通っていました。友人のお母さんが、グノを勧めてくれたことが入塾のきっかけです。自分で塾選びをしたわけではなく、親が決めての入塾でした。英語はスタートダッシュ講座*から、数学は中3から受講しました。

長井：僕も藤川君と一緒に、中1からグノに入りました。自分で塾選びをしていないというのも同じです。当時、母がいくつかの塾の説明会に参加し、グノの説明会で中山先生の話聞いて、「ここに子どもを入れたいな」と思ったそうです。

はじめは英語だけ通うつもりだったのですが、スタートダッシュ講座に参加してみたら、櫻田先生がとても面白くて、数学も通うことにしました。英語と数学をグノで中1からずっと続けました。グノが好きだったので、「グノを辞めよう」とか「塾を変えよう」とか思ったことは一度もありません。

中島：僕は、中3の冬にいくつかの塾を自分で調べました。授業にも足を運んで比較しました。中3から高3まで通うことを前提に考えていたので、「自分がどれだけその塾を好

きになれるか」が基準でした。

候補の中でも、グノは授業の密度が濃くて、時間が短く感じられました。初回の授業ですぐに名前を覚えていただけたのもうれしかったです。「これなら4年間受け続けられる」と思って、グノへの入塾を決めました。



大宮 優香さん (文I・日比谷)

僕は横浜に住んでいるので、グノが一番遠い検討先でした。ただ、僕には東京に憧れもあったので(笑)、「東京まで行ってみようかな」と思って距離は気にしませんでした。親も「交通費も大丈夫だよ」と言っ

てくれたので甘えることにしました。

白石：高2の最初、同じ学校の仲の良い友達がラッシュのようにグノに入ったのがきっかけで、僕も講習からグノに入りました。その頃は、「英語で有名な塾」という程度しか知りませんでした。

以前、家の近くの大手塾に通っていたことがありましたが、部活が忙しくて予習ができず、予習前提の授業からは得られるものがほとんどありませんでした。授業中に演習をするグノの方針はとても気に入りました。

熊谷：私は、高2で冬期講習を体験して、そのまま入塾しました。先生方がすぐに名前を覚えてくださったことが決め手でした。講習には一人で参加したので不安でしたが、すぐにクラスの一員として参加できる雰囲気だったのがとてもうれしかったです。

その時期、他塾の授業にも参加してみましたが、先生が高圧的だったり距離感があって馴染めませんでした。グノの先生方は優しく距離が近いので、私には合っていました。

グノには友達が何人か通っていましたし、インターネットでもいい評



熊谷 姿慧さん (文I・桜蔭)

判ばかりです。入塾に不安はありませんでした。

大宮：私も、熊谷さんと同じで、高2の冬にグノに入りました。高2までは別の塾で英語の講座を受講していました。でも、高3の英語の講座を他の科目との兼ね合いで受けられなくなったんです。英語は得意だという意識があったので、英語に強い塾を探しました。

グノに通っていた知り合いもいて、その人からグノのレベルの高さを聞いたことも決め手になりました。

実際に冬期講習を受けたら、噂通りのレベルに感動しました。自分では英語が得意なつもりでしたが、グノには自分よりできる人がたくさんいたのです。もちろん先生のレベルも高く刺激的でした。

二宮：僕の場合はちょっと特殊です。高校3年の夏から1年間アメリカに留学していました。もともとアメリカの大学に進学する予定でしたが、親の勧めもあって東大を受けることになったんです。

帰国して、すでに東大に合格していた知り合いに塾選びの相談をしました。「英語が喋れて、面白い英語に触れたいなら、グノがいいよ」と元グノ生たちに勧められました。受験

本番まで半年間しかなかったので、グノの方針やカリキュラムも調べた上で、英語に加えて、数学と国語も夏期講習に参加して、そのまま最後まで通い続けました。

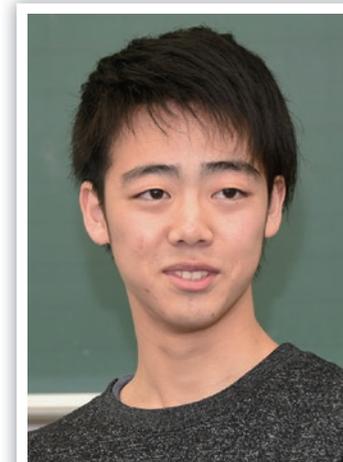
英語の勉強法

二宮：僕の場合、日本史と世界史が0からのスタートで、とりあえずこの2科目をやらないといけなことは分かっていた。一方、「英数国が強い受験生が勝つ」とも思っていたので、英数国の基礎をグノで固めて、地歴は足を引っ張らない程度まで上げるというプランを考えました。

すべての科目において、とにかく基礎、基礎、基礎の繰り返しでした。どんな問題でも時間が経つと忘れてしまうので、時間を置いて何度も何度も繰り返ししました。復習はとても大事です。復習に力を入れて、たくさん問題に手を出さないようにしました。英語に関しても、グノで扱った問題を何度も振り返っていました。

中島：僕も復習が一番大事だと思います。復習のタイミングは早ければ早いほどいいです。

高2の冬頃に気がついたことがあ



白石 昌大さん (文II・芝)



長井 孝彦さん (文II・海城)

るんです。授業で扱った英文の中で、先生の解説を覚えている部分は、間違いなく自分の力になっていました。それからは、記憶に残る部分を増やすため、授業の直後にその日の授業の復習をするようにしました。直後だと、先生の解説のほとんどを肉声で思い出せるしそれが定着します。英文全体が自分の養分になる感じでした。

毎日音読もしていましたが、よく理解できている英文の音読は効果がまるで違うと思います。力がついていくという実感とともに、英語の成績も上がりました。

大宮：高3の読解の授業は毎回要約演習が始まります。私はそれまで要約をほとんどやったことがなかったので、この演習で学んだことは多かったんです。

文章がどのように構成されているか、論旨がどのように組み立てられているかの解説を先生が毎回してくださって、それを参考に次の演習に取り組むうちに、論理力が鍛えられたと思います。夏は散々だった東大模試の要約も、秋以降は点数が安定するようになりました。

中山先生がよく「読書は対話。自然に抱く疑問を大切に」とおっしゃって

いました。書かれていることに対して、「それってどういうこと?」と、こちらから疑問を抱くようにするんです。筆者が具体例などで説明を加えてくれていることもあるし、読み手側が自分の経験などに照らして解釈することもあります。先生の解説でも、よく「どういうこと?」とか、「たとえば?」という合いの手が入っていました。それを自分でも意識して勉強していたのが良かったんだと思います。

二宮: 僕の場合も、グノで英語の読み方を学んだら国語の点数も伸びました。英語と日本語では論理の組み立てには違いがあるかもしれませんが、「この文章はこういう論理で書かれているから、ここここをつなげて記述する」というプロセスは共通です。東大は地歴も記述なので、論理力を鍛えることで全科目に効果がありました。

中島: 他塾の解説では、よく「このパッセージではこれがキーセンテンス」とだけ言われたりします。納得できる説明がないと、「なんで?」と思うだけで僕たちの力にはなりません。

グノの先生は本当に深く英文を理解されていると思います。筆者がど



二宮 陽二郎さん (文Ⅲ・麻布)

んな考えで言葉を選び、文を組み立てているかの解説が丁寧です。論理をしっかりとだれると、「著者が伝えたいことをしっかり受けとめた」と実感できます。現代文の勉強にもつながりましたし、論理力という面で言えば、全科目にいい影響があったと思います。

長井: 僕の場合とはとにかく、グノで扱った英文を繰り返し読み返していました。基本は、音読です。ただ、音読は疲れるので(笑)、ときどき黙読にしていましたけど、反復して読み返すことは徹底していました。

でも、黙読ばかりしていると、語彙の把握が適当だったり、文構造がよく分かっていなくても、速読できている気になって読み方が浅くなる場合があります。

特に高3の授業では扱う英文の内容が深くなっていきましたから、何度も何度も英文を音読しました。授業で解説されていた単語の話や筆者の意図とか、いろんなことを思い出しながら声に出して読んでいたので、本当の意味で読むスピードもアップしたと思います。

藤川: 母がピアノ教室をやっていて、僕も2歳からピアノを習っています。母はピアノを教えるときに、ゆっくり

練習と速い練習を使い分けています。

ピアノは指を10本使うので、いちいち指の動かし方を考えては弾けません。でも、最初からそういう弾き方をしても、弾けるようにはなりません。だから、練習のときはゆっくり練習を取り入れます。ゆっくり練習はメンテナンスをします。僕自身がピアノを練習するときは、ゆっくり練習と速い練習とを2対1の割合で混ぜています。

このピアノでの練習法を、英語にも応用しました。文構造を完全に意識したゆっくり音読と速いペースで読む音読とを2対1の割合で混ぜたのです。高3になってからの英語の勉強は、これと英作文がメインで、他には全くやっていません。

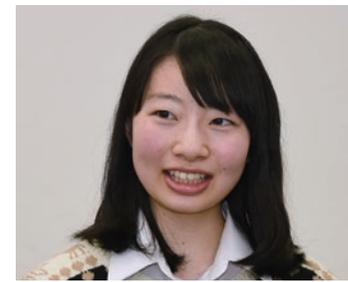
白石: 僕も音読を続けていましたが、高2でグノに入ってから、GSL*を使って音読はしているものの、字面を追って発声しているだけでした。

高3になってから、先生が改めて音読の重要性についてやり方や効果を語ってくださいました。その時の話でようやく僕は「そうだったんだ」と納得できました。改めてやってみて、「音読はこんなに深かったのか」とびっくりしました。

高3の夏は本当に音読しかしませ



藤川 司さん (文Ⅰ・海城)



大宮 優香さん (文Ⅰ・日比谷)

んでしたが、僕にとっては、内容を意識しながらの音読は本当に難しく、いつのまにか暗唱できるくらいまで何回も繰り返していました。

熊谷: 私は、以前から家でがんばる前に授業を大切にするタイプだったので、授業中にできるだけ吸収しようと集中していました。

グノは、集中力を保って主体的に聞ける授業だったのでごく気に入っていました。授業は先生が生徒とやり取りしながら、私たちを巻き込んで進んでいくので、自分が参加していると実感できました。間違ったことを言っても「大丈夫」と思える雰囲気があって、授業中はずっと楽しかったです。

復習のときは、GSLを活用していました。耳で聞くスピードで理解できれば読むスピードが上がりますし、シャドーイングをしていると速く喋る練習にもなって、とても効果的だと思っていました。

グノーブルの数学

二宮: 数学は、一番下のクラスで受講しました。「こういう問題のときはこういう解法が」と先生が話してくださいったり、テーマごとにまとめたプリントをいただけたりして、「初見の問題に出会ったときにどのツールで戦えばいいのか」という基礎を学びました。

夏以降は、テスト演習をしてすぐ解説されるという授業スタイルで、

与えられる問題の量も、僕には合っていました。数学に関しては、友達からもらった参考書1冊を持っていましたが、基本的にグノからもらった教材だけを使用しました。これだけで十分でした。

振り返ってみると、先生方が受験問題を本当によく研究されていたので、短期間に無駄のない問題に取り組めて得点力もついたのでと思います。

長井: 中1から^{おた}縷田先生にずっと教わっていました。縷田先生は、温かいし分かりやすいし楽しくて、基礎力や計算力を培う段階では最高でした。

高2、高3で長澤先生になると、楽しいだけでなく、厳しさも味わいました。それまでは、「文系だし何とかかな」という甘い考えを持っていましたが、「こんなじゃダメだ」と気持ちを切り替えました。

高2では、考えるのにも復習をするのにも、かなりの時間を数学に費やしました。

セルフチェックシートでは、先生に自分の状況を伝えて、先生からのコメントをいただけます。そのやり取りを通して自分の課題も明らかになりましたし、数学への理解も深まり、自分を客観視できるようになりました。

最終的には、数学に対しての自分の限界も知らされることになりましたが、かなりの力も手にすることができたと思っています。



熊谷 姿慧さん (文Ⅰ・桜蔭)

藤川: 僕は中3からグノで数学をとりましたが、きっかけは長井君でした。数学で行き詰まったとき、長井君にグノの数学を勧められて受講を決めました。このときは縷田先生で、楽しく取り組みやすい授業のお陰で、数学も軌道にのりました。

高2からの長澤先生は厳しさが加わって、本気で数学と向き合っていく覚悟をしました。ただ、それでも高2のうちはまだ楽で、配られる問題は何とか解けて、人間の理解の範疇にありました(笑)。



白石 昌大さん (文Ⅱ・芝)

高3になると、僕にとっては問題の凶悪度(笑)が格段に上がりました。水一滴もなしに砂漠を歩いている気分にもなりました。

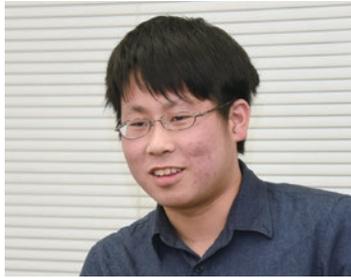
ようやくオアシスにたどり着いたのは直前期でした。「結構簡単だ」と思いながら問題に向かえるようになってきて、東大入試本番も苦手な分野は出ましたが、長澤先生の授業に比べたら本当に簡単だと思えました。

長澤先生の授業は厳しかったのですが、感情的な意味で厳しかったわけでは全くありません。まず、「先生の言うことは確かだ」という先生への信頼が僕たちにありました。そして、授業の進め方、授業で扱っていく問題の選択、僕たちへの要求に、すべて筋が通っていました。筋が通っているからこそ厳しさが伴うのだと思います。

振り返ってみると、グノの数学を



中島 礼朗さん (文Ⅱ・栄光学園)



長井 孝彦さん (文Ⅱ・海城)

受けて間違いなく力がつきました。長澤先生は数学の生き字引みたいな人でしたから、「この問題の類題はありますか？」と要望を出せば、「これこれがある」とサッとプリントをいただきました。いつも柔軟に対応していただきました。

今年の東大は、問題自体が易化したこともありましたが、やはりグノの数学を受けてきたからこそ、気持ちに余裕を持って問題に向かえたのだと思います。

グノーブルの国語

熊谷：吉田先生にはとてもお世話になりました。留学していたこともあって、古文漢文がボロボロだった私に、とても親身に個別対応してくださいました。

授業の雰囲気も良かったです。「これはこうだ」と解釈を押し付けられることもなく、考え方や答案の書き方も分かりやすかったです。「自分のレベルでもベストを尽くせば書ける」と思える解答例は参考になりました。

藤川：グノの英語は受験英語に限定せず、将来を見据えたカリキュラムになっています。数学も、数学全体を包括的に考える授業でした。

一方、高1から3年間お世話になったグノの国語は、要素の抜き出し方や対比・例示の使い方など、特に東大受験のための戦法を重んじる印象を受けました。

でも、解説は決して一方的ではありませんし、添削もしっかりやっていただけて、そういうところは、他の科目と共通するグノらしさでした。特に添削では、「これでも大丈夫」「これではダメ」とキッチリ線引きしていただいたお陰で、国語における必要十分条件の満たし方を習得できました。

長井：僕は高3で東大国語を受講しました。その頃は現代文で壁にぶつかっていました。他塾での現代文の授業では「ここはこういう解釈だ」で終わりですが、そういう授業を受けても答案の導き方や書き方が全然分かりません。予備校が出している模範解答も、レベルが高すぎて、高校生の僕には真似できるものではありませんでした。

一方、吉田先生は本文に準拠して、高校生でも書ける答案の作り方を教えてくださいました。本文の解説も僕たちに変えたりやすく工夫されていた。現代文の授業で初めて、「こういう授業を受けたかった」と満足感を覚えました。

大宮：高3の冬期講習と直前講習で東大国語を受講しました。グノの先生らしく吉田先生も初回で名前を覚えてくださいましたし、普段から受講している人たちと分け隔てなく指名してくださいまして、疎外感を感じずに授業を受けられました。

古文や漢文だと、場面をイメージしづらいことがよくありますが、吉田先生は登場人物になりきって、囁



中島 礼朗さん (文Ⅱ・栄光学園)

み砕いて説明してくださって、こういう解説の仕方もグノの英語に共通していて、楽しいし分かりやすいと思いました。

直前講習では、出題されそうな古語や句法などを教えてくださいました。現代文ならまとめるべき要素の見つけ方を教えてくださいまして、とても充実していました。

私の場合も、高校生が書けそうな解答例を示していただけたことがとても参考になりました。

二宮：中学受験のとき、僕は国語を武器に戦っていました。もともと国語が得意だったんです。でも、留学先で英語だけの生活をしていたら、日本語が下手になってしまいました。帰国後に初めて受けた模試では、国語が30点くらい、古文に至っては3点でした。

そのことを吉田先生にお話ししたら、「古典はがんばらないといけなけれど、現代文は読んでいる。ただ、答えるべきことを文章にできなかったり、冗長になったりしている」というご指摘と、東大の国語の問題への具体的な対処法もアドバイスしていただきました。

解説はいつも明快で、「記述問題では本文のここからこう引っ張ってくる」、「センターではこうやって選択肢を切る」など、戦術的なお話もたくさんありました。豊富な具体例を駆使した本文の解説は、イメージがわきやすくて惹きつけられました。

僕は、吉田先生の模範解答はとても美しいと思っていました。文章から得られる情報を咀嚼して、誰でも分かる言葉で分かりやすい文になっていて、「すごい」と感銘を受けていました。

グノーブルの先生方

二宮：先生方はしっかり研究されているなと思いました。どの科目も全

体を俯瞰しつつ、個別の問題や設問への対処法についても熟知されているし、対策の立て方についても的確なアドバイスをいただけました。普段から研究を積み重ね、僕らのレベルに合わせて指導してくださった先生方に感謝しています。

大宮：まず言いたいのは、先生方がすぐに顔と名前を覚えてくださったことです。高2の冬期講習からグノに通い始めた私は、グノに通い続けている人たちに囲まれて、「ぼっち」みたいになるかな、と不安でした。でも、先生方のフレンドリーさのお陰でクラスの雰囲気はすぐ馴染めました。



二宮 陽二郎さん (文Ⅲ・麻布)

先生方が広くて深い教養をお持ちになっているのにも感動しました。英語の読解では、演習の時間には内容が全く分からない英文をいくつも扱いました。でも、中山先生が、「どこから出てくるのだろう？」と思うくらい豊富な知識を駆使して解説してくださいると、難解な英文がとても楽しめる英文にどんどん変わっていききました。文系系系を問わずいろいろな分野に精通していらっちゃって、具体例も分かりやすくて、本当に驚きでした。

冬期講習と直前講習で出会った吉田先生も、とても広い教養をお持ちで、私たちに分かりやすく解説してくださいました。

グノの先生方に出会うまでは、私はただ受験のためだけに勉強してき

ました。でも、グノに入って、「こういう大人になりたい」と、勉強の動機も変わりました。大学入学後、文系系系に捕らわれずいろいろな分野に興味を持って勉強したいと思っています。

長井：大手と大きく違うのは、グノでしか味わえないライブ感です。生徒目線というか生徒思いというか、そうした熱いものが先生方にはあって、それをひしひしと感じました。

中島：確かに、先生の熱量がすごいです。熱量というのは、声の大きいか、そういうことではなくて、「愛」とか「期待」ということだと思います。

たとえば、本原先生は静かに授業をなさるのですが、その中に僕たちへの思いがこもっていて、そういう授業を受けると「僕も全力で応えなければならぬ」と気持ちが高まります。

先生方は本当に教養にあふれていましたが、そういう先生方が全力で授業をしてくださる姿勢がとても魅力的でした。僕も「こういう大人になりたい」と心から思いましたし、10代の間にグノで授業を受けられて幸せでした。

藤川：グノは、いい意味で一般的な塾の授業とかけ離れています。授業では発展的なことばかりやるのではなく、基礎にも面白みのふりかけをかけて、僕たちに提供してくれます。英語だと、つい数日前の出来事が教材になっていることもよくあって、それは新鮮さのふりかけて感じます。

僕たちが興味を持てる教材をいつも用意してくださることに、先生との近さは表れていますが、もちろん、毎回の添削や質問のしやすさなどにもそれが表れています。

グノの先生と生徒の距離は近いと言われますが、それはなれ合いの近さではありません。グノの先生は生



藤川 司さん (文Ⅰ・海城)

徒に敬意を持って接してくれます。もちろん、僕たちも先生を尊敬しています。それにプラスして、学問への興味が土台になっているので、いい意味での節度があります。

熊谷：英語の授業では、英文に関連した美術や哲学の話を紹介していただけたり、さりげなく有名な小説の一節が聞けたり、とにかく、たくさん知的な刺激を受けました。

それから、大学受験の予備校だと、尊大だったり高圧的だったりする先生も見かけるのですが、グノの先生方は本当に人柄が良く、安心して勉強に没頭できました。理不尽に怒ることはけっしてなく、いつも優しく接してくださいました。

白石：そもそも、授業の場で演習したものを、先生自らがすぐに添削して返却してくださるシステム自体すごいです。先生方がいつも僕たちのことをよく見てくださっていることをありがたいと思っていました。

だからこそ、英作文で出来がいいときに、“Very Good”と書いていただけると本当にうれしくて、僕はそういうプリントをファイリングしていました。

要約でどんなに出来が悪いときでも、次回に希望を持てるコメントを書いてもらえると、かえってやる気が湧いてきました。

僕の中では、先生との実際のお喋りよりも、添削を通して先生を近く感じていました。

11期生 合格者インタビュー

東京大学 文系

— Part 2 —

「数学でこんな授業は初めてだ!」と思いました。
グノに来て、英語でも革命的な指導に出会ったのですが、数学でも革命が起こりました。
目の前の問題にただ対処していく姿勢から、俯瞰的に戦略を考えられる姿勢に変わりました。

安彦 賢さん (文Ⅲ・麻布)

入塾のきっかけ

小田：高1のとき英語で入塾しました。きっかけとして一番大きかったのは、英語を英語のまま読むというグノの方針が学校の方針と一致していたことです。宿題の量が適量なのも魅力でした。他塾のように宿題が多いとこなせないと思ったんです。

柴田：高1になる前、「高校生になるから英語をきちんと勉強しよう」と思って塾を探しました。このとき、グノの説明会に参加した母が「他の塾に比べて熱量が大きい塾だった」と言っていて、グノが候補に上がりました。

私はもともと英語が得意でした。だから、「レベルの高い塾に入りたい」と思っていました。それで、グノに通っている友人に教材を見せてもらいました。適度に難しく面白そうだったので、英語のレベルアップを期待してグノへの入塾を決めました。

中川：私は高1のフレッシュアーズ講座*で入りました。「英語がいい塾」というグノの評判を聞いていたこと、知り合いがたくさん通っていたことが入塾の決め手でした。

中1から中3までは別の塾に通っ

ていましたが、高校受験が終わってから、その塾とグノを比べてみました。小田さんが言っていたのと同じように、私も宿題が多くないグノに魅力を感じたのです。1回の授業で、演習して、添削してもらって、解説を受ける、というグノの完結した授業スタイルが良かったです。



安彦 賢さん (文Ⅲ・麻布)

村山：私も高1のフレッシュアーズ講座で英語を受講して、そのまま入塾していました。それまでは英会話教室に通っていましたが、高校生になるに

あたって受験を意識するようになり、本格的に受験対策のできる英語の塾を探しました。

私は自分なりのこだわりを大切にしました。英語を売りにしていて、芯の通ったところのある塾がいいと思いました。親に勧められてグノの講習に通い、「ここなら」と思えたので、講習後もグノに通うことにしました。

安彦：僕がグノに入ったのは中2の冬です。中1の頃は別の塾に通っていましたが、麻布に入ったということもあって遊びもしたいのに、その塾は宿題が多すぎていやになってしまっていました。

でも、結局遊び過ぎて成績が落ちてしまい、なかでも英語の成績がボロボロだったので、「英語がいいらしい」という親の勧めに従って、グノに入塾しました。中3からは数学も受講しました。

堀：私は中3の夏期講習で初めてグノの授業を受講しました。きっかけは母の勧めです。他にももう1つ塾を勧められましたが、「とりあえずグノを受けてから、他の塾も考えよう」と思って、グノの夏期講習を受けました。そうしたらとても楽しかったのです。そのまま入塾しました。

あびこ けん
安彦 賢さん (文Ⅲ・麻布)

おだ まゆ こ
小田 麻優子さん (文Ⅰ・鷗友学園女子)

しばた なな こ
柴田 菜々子さん (文Ⅱ・光塩女子学院)

なかがわ ゆい
中川 唯さん (文Ⅱ・日比谷)

ほり さやか
堀 雅さん (文Ⅲ・桜蔭)

むらやま りさ
村山 莉咲さん (文Ⅲ・吉祥女子)

●PDFフルバージョンでは、「英語が面白いと感じたとき」、「グノーブルの先生」、「グノーブルの環境」もお読みいただけます。
www.gnoble.com/gnolet19/



グノーブルの評判

村山：高1でグノに通い始めた頃は、吉祥女子でグノに通っている人はそんなにいませんでした。「グノに通うのは最上位の進学校の人だ」というイメージが周りにも私にもあって、私自身もグノへの入塾を迷いました。ただ、講習がとても良かったので、「気に入った塾に通った方が絶対にいい」と思って迷いを振り切りまし



小田 麻優子さん (文Ⅰ・鷗友学園女子)

その後、高2の文化祭が終わった頃から、英語を中心にグノへ通う人たちが増えました。学校からも「受験がもうすぐだ」と言われ始めて、今まで塾に関心なかった人たちが、評判のいいグノに注目したのだと思います。

安彦：麻布でも、中学時代にグノへ通っていたのは数名で、当時は話題にもなりません。高校になると、麻布の中にグノ生が増えていって、最終的には20名くらいまでになりました。

高1だと皆「受験はまだ先だ」と楽観視していますが、高2になると志望校を考えて受験を意識し始める

ので、遊んでばかりいる麻布生でも塾探しを始めます。英語に関してグノは人気がありました。

堀：桜蔭も状況は似たような感じでした。中3のときまでグノの評判を聞かず、高1のときに古文で通う人たちがグノの話をしているくらいでした。高2になると、英語で通う人がどんどん増えていきました。大きな部活に所属している人がグノに通い出して、その部活の人たちがどんどんグノのことを気にし始めたんです。こうしてグノの評判が広まったと思います。

中川：私自身は、グノの評判は女子学院の知り合いから聞いていたのですが、日比谷の中では高1の頃にはグノのことを知っている人はほとんどいなかったと思います。でも、高3になると通う人が増えていった感じです。10人前後はいたかもしれません。

柴田：光塩女子では、トップ層の何人かがグノに通っていただけでした。東工大に合格した先輩が「数学が得意でなかったけれど、グノに通ったら数学が得意になった」と言っているのを、私も中3の頃に耳にしたことがありました。「英語がいい」という噂もありましたが、そもそも皆グノのことをあまり知らず、「グノというところがあるらしいよ」という感じでたまに話題に上る程度でした。

小田：鷗友では、周りにグノ生がたくさんいましたね。グノの方針と学校の方針が合っていたこともあって、英語についての評判が高かったです。「グノは、合う人にはすごく合う」と言われていました。

グノーブルの英語

小田：私は、小3までの5年間シンガポールにいましたから、英語自体はもともと得意でした。帰国後も、

中学までは帰国子女用のスクールに通っていましたが、高校からはそのクラスがなくなりました。

そんな私にとって、「英語を英語のまま読む」というグノの方針は魅力的でしたし、教材として使用されている英文も洗練されていて、とてもいいと思っていました。

ただ、高3の夏休みに、要約の成績がガタッと下がった時期がありました。英文の内容を日本語でまとめるのが東大の要約ですが、その頃、答案をまとめるために日本語を意識し過ぎていたのだと思います。先生にもよく言われていたのですが、英語の文構成は日本語とはかなり組み立てが異なります。改めて「英語で解釈」ということを意識するようになったら、主旨の把握や全体の組み立てが明快になって成績もまた上がりました。

お陰で東大入試でもTLP(トライリンガル・プログラム)*に選ばれました。グノの方針は本当に正しいのだと思います。

柴田：英文を返り読みしないで前から読む読み方は、知らないときできません。私は、グノで最初からそういう読み方を教わって練習していたの



柴田 菜々子さん (文Ⅱ・光塩女子学院)

*新高1生対象の春期講習。

*入学時に一定レベルの英語力を有すると認められた学生(上位一割程度)のうち希望者を対象に行われ、日本語と英語に加え、もう一つの外国語の運用能力を鍛える教育プログラム。(http://www.cgcs.c.u-tokyo.ac.jp/ttp/)

で、前から読むのが自然とできるようになっていました。これが威力を発揮したのは、英文が難しくなったときです。どんな英文でも速く読めるのです。

あるとき、「どうしてそんなに速く読めるの？」と友人に聞かれたので、私は逆に彼女の読み方を教えてもらいました。彼女は、英文をスラッシュで区切って、SVなどと書き込みながら読んでいたのです。

安彦：中2の夏頃まで英語が本当にできなくて、簡単な文章ですら解釈ができませんでした。その頃は、並んでいる英単語をどの順番で読めばいいか全然分からなかったんです。

でも、グノに通い始めて、英単語の順番を入れ替える必要なんてなくて、ただ順番に読めばいいのだと教わりました。きれいな日本語に直していなくても前から読めば意味はとれます。そのやり方で音読を続けていたら、読むスピードもどんどんアップしました。

村山：グノの授業ではたくさんの英文を読んで演習します。内容が新鮮なうちに解説を受けられるので、私たちの理解が早いし、先生も私たちのことをよく知っていてくださるの



中川 唯さん (文Ⅱ・日比谷)

で解説が無駄がありません。結果として、1回の授業でもすごい量の英文を効率よく扱います。

同じ量の英文を自分一人で読んで理解しようとするのととても大変です。それは過去問演習をしていて気がつきました。過去問を自分で読んで、分からないところは解説や全訳を読んで理解する、という作業はとても時間がかかるし、あまり楽しくありません。

こうした負担を軽減できるという意味でも、楽しく受けられるという意味でも、グノの授業はすごいと思いました。

安彦：語源やその語のイメージを意識した単語の覚え方にも魅力を感じます。グノでは、「単語帳を使わなくていい」と先生に言われます。日本語との対応に縛られ過ぎるからむしろ使わない方がいいとさえ言われます。僕も実際使っていませんでした。その代わりに、高校の頃から語源ノートで自分で作り始めて、それを入試まで使い続けました。

語源ノートのメリットは、覚えやすいことに加えて、楽しいことにあります。単語は語源の組み合わせなので、それを知ることと興味が湧いてきて、「英語は面白い」と実感できるのです。中心の語源から語彙がどんどん増えていって、「こんな単語があったんだ」という感動を何度も味わいました。多義的な単語の場合も、その語源から意味が派生していて、それをたどっていくのも興味がつきません。

グノのお陰で英語への向き合い方が変わり、楽しく勉強しながら本当に得意になっていきました。

中川：語源から単語を覚えるのは斬新でした。私も単語帳を使いませんでした。単語の語源を理解すれば、無理して覚えなくても、いくつもの単語がずっと自分の中に入っていきます。



堀 雅さん (文Ⅲ・桜蔭)

接頭辞や語根を自然に意識できるようになったので、単語一つひとつに、なんだか個性的な顔があるように見えて、似た顔の単語から意味を推測することもできるようになりました。

英検の勉強をするときも、対策用の単語集で難しい単語を覚えていく作業はやる気がなくて、そのまま本番に臨みましたが、グノでやってきた勉強でちゃんと対応できました。

堀：確かに市販の単語帳を使わないメリットは大きかったです。勉強嫌いにならなくてすみますし、その時間を他のことに回せます。英語だけでなく古文でも、グノの人たちは単語帳を使っていません。

学校の友人たちは単語帳を必死に暗記していました。彼女たちは「グノの人は誰一人単語帳を持っていないと怖い」と言っていました。

単語帳を使わないことに対して、私は楽観的なので不安を感じません。私は楽観的なので不安を感じません。私は楽観的なので不安を感じません。私は楽観的なので不安を感じません。私は楽観的なので不安を感じません。

村山：もともと暗記は嫌いではありませんでしたが、英単語は別でした。学校の単語テストでは、英単語と一

番上の意味をひたすら覚えて乗り切っていました。そんな単純作業にうんざりしていたので、グノの単語の覚え方のお陰で気持ちが楽になりました。

語源を知らないとスペルと発音と日本語の意味をそれぞれ全部覚えなければなりません。1つの単語に5個以上も意味があると、膨大な量の暗記が必要です。でも、語源とかイメージを意識すれば、「英語の考え方だところなるから、1つの単語からいくつもの意味が派生するんだな」と理解できて、無理に覚えようとしなくても自然と意味を把握できます。

英語力の伸びと音読

小田：帰国生として英語に慣れているとはいえ、内容が深く複雑なことが書かれている英文まで始めから分かるわけではありません。英語の力が伸びたのは、授業の解説を聞いて理解できている英文の音読に毎日取り組んでいたからです。

1日の量は決めていて、朝起きてすぐに音読しました。勉強の合間の時間も利用しました。難しい英文でも何度も音読していると、読みながら「きちんと理解できているな」と思えるようになります。その積み重ねが実力として積み上がったのだと思います。

柴田：私は、グノ入塾直後すぐに英語を読めるようになりました。学校でGTECというテストを毎年受けますが、そのスコアが高1から高2までにめっちゃ伸びました。模試や学校の試験でも、面白いように英語が分かるようになりました。

私が取り組んでいたのも音読だけです。音読さえしていれば、長文は速く読めるようになるし、リスニングもできるようになります。特別に

リスニング対策をしたわけでもありませんでした。音読をしていると英語力が一般的に伸びると思います。

音読を続けていると、英文が頭にすっと入ってきて、「この英文は自分になじんできたな」と思える瞬間が訪れます。それがうれしくて、音読は大好きでした。

他の勉強をするときも、いきなりカリカリ問題を解く前に、音読で気合いを入れていました。音読をやるほど勉強スイッチが入る感じでした。

堀：高1のときには、学校の英語のテスト対策として、知識的なことは暗記して、大事そうな英文を覚えるために、ノートに英文と和訳を対応させて書いていましたが、音読はしていませんでした。高2になってから、「そうだ。学校の教科書もやっぱり音読しよう」と思って音読を始めたら、書く勉強よりも全然時間が短くなったのに英語の成績がかなり上がった。「音読はすごい」と感動しました。



村山 莉咲さん (文Ⅲ・吉祥女子)

書く勉強だと、がんばって意識を集中して覚えても忘れやすいし、頭の中にあまり染み込まない感じです。一方、音読は、口で言ったことを耳

も頭も勝手に覚えてくれる感じです。潜在意識にまで働きかける勉強法なのかもしれません、私の個人的な感想ですけど(笑)。

安彦：僕の場合は、特に英語が伸びたと実感したのは高2の秋以降でした。

高2の夏に、シンガポールで開催されるサミットみたいなイベントに参加しました。そこでは各国から集まった人たちと議論するのですが、僕は思うように英語を喋れず、聞き取りにも苦労しました。「グノに通っているのに英語がヤバイ！」と危機感を抱いて、帰国後から本気を出して音読に力を入れるようになりました。集中的に1日3、4時間音読することもあって、とにかく英文を覚えてしまうくらいまで読み込みました。そうしたら、自然と英語ができるようになって、新たな自分に生まれ変わったような感じになりました。

中川：1番伸びたのは高3の夏休みと直前期でした。学校の授業がないときには、自分で勉強する時間が多く取れます。GSL*を使って本格的に音読していましたが、朝に読んだ英文が、寝る前に頭の中で再生される経験もよくしていました(笑)。

直前期には、英語の勉強としては、ほとんど音読しかしていません。グノレットや合格体験記にも「音読がいい」と書いてあるので、「グノを信じよう」と腹をくくりました。そうしたら、結果もついてきました。音読は読解だけじゃなくて、リスニングや英作にも効果があります。後輩の人たちも音読を信じて大丈夫です。

村山：私も高3の夏に伸びました。高1からグノに通って音読をしてはいましたが、飛躍的に伸びた感じはありませんでした。高3の授業では、扱う英文が難しくなって、きちんと音読しているはずなのに英文が読めなくて困りました。このとき、自分

* Gnable Sound Laboratory：中1から高3までの6学年すべてにオリジナルの英語音声教材を用意しています。

のどこがいけないのかを振り返って、音読のやり方に問題があることに気づきました。

私は、スラスラ読めることだけを目的に音読していましたが、英文の構成や内容への意識がほとんどありませんでした。その後、黙読で英文の細部や全体像を確認してから音読するようにしました。このやり方には効果が実感できました。模試の成績も上がりました。

音読するときは、どうしても口に出さなければならないので、そちらに意識が向いてしまいます。だからこそ、音読の前に黙読して、理解を深めておくのが有効だと思います。理解があいまいなまま音読をしても、ただ上手に声に出しているだけの自己満足に陥ります。

グノーブルの数学

堀：**おた** 櫻田先生は本当に優しく、いつも楽しい授業でした。中3の冬期講習で初めて出会ってから高1まで、櫻田先生の授業が大好きでした。

長澤先生の授業は高2の春期講習からでしたが、実は、長澤先生の良さが分かるのには少し時間がかかりました。初対面のときにはちょっと恐い先生だと感じて、「グノの数学を続けるのは無理かも」と思ってし



安彦 賢さん (文Ⅲ・麻布)

まいました。それでも、「グノの先生なんだから待ってみよう」と思って即断することは避けました。

通常授業になると、板書のすごさに感動させられましたし、印象も恐い先生から、優しい先生に変わり、最後まで信頼してついでいこうと思えるようになりました。

先生方からすると楽しい授業を提供する中学生と、自主的な姿勢を促す受験生とで、接し方を変えていたのかもしれない。今振り返れば、成長には厳しさも必要だったと分かります。

安彦：僕は中学3年から受講しました。中3と高1のときに教えてくださった櫻田先生は、やはりとても優しく、楽しく勉強させていただきました。

高2から長澤先生になって、数学の授業の雰囲気が大きく変わりました。最初は、僕も「新タイプのグノの先生現る」と思いました。すぐには近寄れない感じがあったからですが、しばらくすると、長澤先生も本当に生徒思いだということと、すごい先生だということが分かってきました。

最初の数か月、先生は日本語でどんどん板書していきます。それを僕たちはノートに書き写していきます。週を追うごとに、ノートがどんどん充実していきました。

数学においては論理化ということが大切です。数学が超得意な人は言語を使わなくても数学の世界を概念化できて、客観的な思考ができるのかもしれませんが、それができない人にとって言語化することはものすごいメリットがあります。単元と単元がつながって、全体が有機的に結びつきます。言葉で数学を捉えていくことで、やみくもに問題に取り組む徒労から脱却できます。

「数学でこんな授業は初めてだ！」と思いました。グノに来て、英語で

も革命的な指導に出会ったのですが、数学でも革命が起こりました。

それまで数学の勉強といえば、演習と答え合わせをして、できなかった問題を教えてもらって、解き方を覚えるだけでした。

長澤先生の授業では、もっと根本的なことを学びました。数学の全体像がつかめ、論理を駆使する面白さを実感できるようになりました。目の前の問題にただ対処していく姿勢から、俯瞰的に戦略を考えられる姿勢に変わりました。

村山：私は越川先生に教わっていましたが、やはり、問題に対する姿勢はグノに来て随分変わりました。



小田 麻優子さん (文Ⅰ・駒友学園女子)

それまでは、ただ問題集を解いて、新しい問題に出会うと、それまでに見たことのある類似問題を頭の中で探して、そのときの解き方で解こうとしていただけでした。

グノの授業では、類似問題と同じように解くのではなく、きちんと考えて解くということを学びました。

そのときの武器はやはり言語化でした。以前は、数学というと、文字や不思議な決まり事が多くて嫌でした。でも、それらを日本語にして、自分にとって分かりやすいように理解できれば、見たことのない問題でも、解き方の方針を自分で判断して



柴田 菜々子さん (文Ⅱ・光塩女子学院)

解けるようになりました。

最後まで、他の科目に比べれば、数学は得意科目とは言えませんが、グノに来てから、数学においても大きく成長できたと思います。

それには、セルフチェックシートもとても役立ちました。最初の頃はどの問題も×ばかりで、「自分の残念な思考回路を書いて提出したところで何か意味があるかな？」と思っていました。でも、自分の成長の軌跡を記録して先生に見ていただくことは、思った以上に効果がありました。間違いだと思っていたことも、正解にたどり着くための考えとしては正しかったとか、最後の1つを思いつかなかったただけだったとか。これが意外と励みになりました。

堀：セルフチェックシートのお陰だとまず実感できたのは、「解けないときには、自分がやっていることがよく分かっていない」ということでした。とりあえず手を動かしているだけだったんです。

次に分かったのは、「だいたい同じところつまづいている」ということでした。全然学習できていないということに気づかされました。

安彦：セルフチェックシートがなかったら、ただ問題を解くだけになっていたでしょうね。間違った問題があっても、答えを見て「簡単じゃ

ん！何でできなかったんだろう？」と軽く考えて、それ以上の成長はなかったと思います。

セルフチェックシートには、自分の思考の過程を言語化して書いていきます。書くことによって初めて、課題が明確になり、成長の軌跡というより、いかに成長していないかがはっきりします。

最初の頃は全然書けなかったセルフチェックシートですが、4、5か月後には、びっちり書いて欄が足りなくなるくらいでした。

あと、長澤先生に勧められて始めたことですが、高3になる前に自分で作った解法ノートは役立ちました。前期の板書ノートを参考にしながら、自分の武器一覧を言語化してノートにまとめていくんです。この作業を通して、まず、自分の武器である解法が体に染み込んでいきます。その武器を軸に問題演習をしていくと、解法を完全に使えるようになります。**堀**：私は、抽象化や言語化が本当に苦手でどうしようもなかったのですが、長澤先生に相談に行きました。そうしたら、「具体例でもいいからまとめなさい」とアドバイスされたので、「円を見たら中心を描く」とか、「円を見たら接点」などの具体例をまとめていました。

グノーブルの国語

柴田：高1で古文、夏期講習で漢文を受講しました。高2、高3では演習しかななくていいくらいに高1でものすごく伸びました。特に漢文は4日間だけでしたが、講習前までは何だかよく分からなかった科目なのに、講習後は「漢文が読める」という状態になりました。実際、センター試験の漢文を読んでもほぼ満点を取れるレベルになりました。

担当の吉田先生がとても良かった

です。お話がスーッと体に入ってくるし、プリントも先生の手作りでした。市販の漢文の参考書には、実際の入試で出ない情報も載っています。吉田先生の授業には一切の無駄がなく、頻出の漢字をたくさん教えていただきました。基本の句形をまとめたプリントが配布されて、それを何度も復習するだけで力がつきました。**中川**：高1の夏に漢文、高2で古文、高3は小タームごとに東大国語を受講しました。

古文と漢文の授業では、単語を語源から教えてくださるだけでなく、関連したお話も交えてくださいました。先生のことが好きで、授業に行くのが楽しくて、ただ楽しんでいたら古文が読めるようになっていました。



中川 唯さん (文Ⅱ・日比谷)

現代文の授業では、春期講習で解き方を一通り教えていただいて、その後は実践的に過去問を解いていきました。英語と同じで、関連する話題も取り上げられたので、文章からいろいろな学びました。

堀：私も高1で古文を受講しました。皆さんの言っている通り、本当に楽しい授業で、楽しく通っているうちに、古文が得意になりました。

高2では、学校で『源氏物語』を読みました。読みましたが、「難しい」と言われて

東京大学

【座談会出席者】(五十音順、本文中敬称略)

Part 1

しん あきよし
邢明吉さん
(理Ⅰ・武蔵)たにやま ひびき
谷山響さん
(理Ⅱ・女子学院)ひがしの まさのぶ
東野昌伸さん
(理Ⅰ・麻布)ふるかわ のりゆき
古川倫千さん
(理Ⅱ・開成)み かみ げん
三上玄さん
(理Ⅰ・早稲田)

Part 2

あだち みつよし
安達充慶さん
(理Ⅰ・筑波大学附属駒場)えんどう たける
遠藤建さん
(理Ⅱ・渋谷教育学園幕張)さとう ゆうき
佐藤祐希さん
(理Ⅰ・筑波大学附属駒場)なかしお りょう
中塩瞭さん
(理Ⅱ・渋谷教育学園幕張)ふかだ たいが
深田大雅さん
(理Ⅰ・筑波大学附属駒場)まつい あやり
松井彩里さん
(理Ⅰ・渋谷教育学園幕張)

Part 3

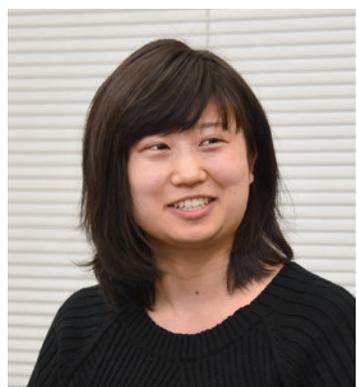
いとう ゆうご
伊藤雄吾さん
(理Ⅱ・栄光学園)しかの ゆみ
鹿野友美さん
(理Ⅱ・晃華学園)ひらおか たけお
平岡健央さん
(理Ⅰ・小石川中等教育)

いる割に理解できて、グノ効果を実感しました。それに余裕も生まれました。古文に関しては、学校の授業を聞き逃しても理解できなくなることがなくなり、定期テスト前も焦らなくて済みました。

また高2、高3では、学校で古文の単語テストが実施されました。そのとき、グノの古文を受けていた人たちは、英単語と同じで語源やイメージを大切に覚え方をしていたので、単語帳を改めて勉強しなくてもテストをクリアしていました。

安彦：僕は、高2の冬に、古文の対策をしていない人向けの講座を受講しました。それまで古文や漢文の対策を全くしていませんでしたが、吉田先生のお陰で短期で大きく成長できました。高3では東大国語も受講しました。

グノの授業はすべてアットホームですが、その中でも国語は特にアットホームでした。教室も小さかったので、先生との距離が近くて授業の雰囲気も温かいものでした。

ほり まや
堀雅さん (文Ⅲ・桜蔭)

村山：私も、古文の授業をとったのは高2でした。高3では、東大国語の現代文を受講しました。

高2の最初の頃は、古文は「とりあえず解けるようにしなければならぬ」という対象でした。でも、授

業を受けたら面白くて、「古文は、理解できるとこんなに面白いんだ!」と感動しました。もちろん難しい文章は難しいです。それでも楽しく学び続けることができ、難しい文章にも慣れていきました。「こんなにややくい問題でも解けるんだ」という手応えがうれしかったです。

先輩へのアドバイス

小田：グノのやり方を信じて勉強してほしいと思います。私は、低迷状態が続いてしまったときにも、普段から先生に言われていたことができなくて、なかなか抜け出せなかったことがありました。自信を持つことは大切ですが、グノの先生のおっしゃることを信じる素直さも大切だと思います。

堀：グノの先生のおっしゃることをやらないでいると、勉強のやり方に発展性が生まれません。先生のアドバイスには、「そんなのできないよ」と思ってもまずは従ってみる事です。想像もできなかった効果が分かったり、これまでのやり方に工夫が加わって勉強の仕方がうまくなったり、苦手なことが克服できるようになります。

柴田：グノの先生と教材は最高です。グノの先生は誠実な方ばかりなので、先生がおっしゃることを信じていけば、結果はついてきます。そのときに、ただ「ハイハイ」とついていくのではなく、先生の言葉の意図や理由を考えていく姿勢は大切だと思います。

中川：私の場合、受験期は精神的にきつい思いをしました。学校もなくて家で一人きりで勉強するのはかなり大変でした。試験本番も自分一人の戦いですが、グノで培った実力と自分を信じて健闘してほしいと思います。

むらやま りさ
村山莉咲さん (文Ⅲ・吉祥女子)

安彦：僕自身は、夏以降失速して勉強できない時期が続いてしまいました。夏までは1日に十数時間勉強していたのに、悪循環にはまってしまいました。そうはならないように、長期的に1年間を捉えて、勉強のリズムを崩さずに勉強を継続していくのがいいと思います。

ただ、勉強のリズムが崩れた僕に関して言うと、グノの授業は休まずに通い、授業は楽しもうとしていたので、そこで何とか態勢を保てたということと言えます。

村山：グノは教材や授業が充実していて、復習する量が多いです。だから、他の友達が使っている問題集に安易に手を出すと消化不良を起こします。余計なものに手を出さず、グノの教材を自分のものにしていくことが大切です。

それから、センター試験後に受けた私大に合格した場合、安心感で国立へのモチベーションが下がってしまうこともあるかもしれません。余計なことは考えないで、グノの英文を音読するなど、これまでの勉強の習慣をそのまま続けたり、その時にやるべきことを集中して淡々とこなすのがいいと思います。

11期生 合格者インタビュー

東京大学 理系

— Part 1 —

しん あきよし
 邢 明吉さん (理Ⅰ・武蔵)

ふるかわ のりゆき
 吉川 倫千さん (理Ⅱ・開成)

たにやま ひびき
 谷山 響さん (理Ⅱ・女子学院)

み かみ ふかし
 三上 玄さん (理Ⅰ・早稲田)

ひがしの まさのぶ
 東野 昌伸さん (理Ⅰ・麻布)

●PDFフルバージョンでは、「グノーブルの評判」、「英語が伸びた時期」、「グノーブルと英会話」もお読みいただけます。
www.gnoble.com/gnolet19/



グノには、面白い英文をたくさん読む中で、言葉の持つ意味を掘り下げながら、自然と語彙を増やしていける独自の仕組みがあります。加えて、授業がとてつもなく濃密でした。

三上 玄さん (理Ⅰ・早稲田)

入塾のきっかけ

三上: 中学生の頃は他塾の英語に通っていましたが、「このままでは伸びない」と思い、高1からは塾を変えようと考えていました。グノを勧めてくれたのは父です。さまざまな情報を父なりに分析して、大学受験とその先のことを視野に入れ、「確実に英語を伸ばせる塾」として選んでくれたのがグノでした。

説明会に参加してみたら、先生方のお話に「面白そうだな」と僕も興味湧いて、英語と古文で入塾しました。

古川: 「英語は早めに塾に入らないといけない」と思い、中3の初めに塾を探しました。周りの人たちに塾のテキストを見せてもらいました。グノの教材はクリーム色の冊子で、薄くて背表紙もないし、フォントも堅苦しくなく、厳しなさそうな第一印象が良かったんです。他塾のことも気にはなりましたが、まだ4年あって余裕もあるからと思いグノに入ってみたら、結局気になって最後までお世話になりました。

邢: もともと学校の授業についていけないくらい英語が苦手だったので、高1から他の塾に通ってました。

家から近いという理由で選んだ塾でしたが、高2になったとき、その授業が面白くなって、塾に行くのが嫌になってしまい、転塾を考えました。



邢 明吉さん (理Ⅰ・武蔵)

兄*もグノを勧めてくれましたし、英語がよくできる学校の友達もグノに通っていると知って、「グノに通えばできるようになるのかな」と思うようになり、グノに入ることを決意しました。高2の秋のことでした。
東野: 僕も高校2年からです。きっ

かけは、「いい英語の塾に通いたい」と思ったことです。仲のいい友達数人がグノに通ってましたし、インターネットで調べたら、生徒と先生方の距離感が僕に合いそうだったので、説明会に参加したところ、ここなら大丈夫だと思ってそのまま入塾しました。

説明会で古文の重要性にも気づかされ、古文も受講することにしました。グノの環境が気に入ったので、その後、数学と物理も受講しました。
谷山: 私は中1から英語と数学でお世話になりました。小学生の時に英会話に通っていたため英語を感覚的に捉えてしまう傾向があり、それを心配した母がいろいろな塾を検討して英語に強いグノを勧めてくれました。

数学も受講してみたらとても気に入って、「すごく楽しかったから」と親に頼んで受講することにしました。

グノーブルの英語

邢: グノに転塾してからは、授業が面白くて感動しました。まずは毎回配付される英文の教材が新鮮で、内容も面白いことに驚きました。先生

に当ててもらえるので、こちらのやる気も湧きますし、先生と生徒がやり取りしながら授業は進んでいくので退屈しません。

東野: 先生とのやり取りがあるのは、確かに良かったです。授業に主体的に取り組めるし、第一眠くなりません。英語の授業は、先生から生徒に対して一方的に叩きこまれる印象がありましたけど、グノの授業は全然違います。

先生が面白い英文を用意してくださって、僕たちがその場でそれを演習して、答案をすぐに先生が添削してくださって、それを踏まえての解説が始まり、解説のときにも先生が当ててくださると、グノの授業は常に双方向のやり取りがあって新鮮でした。

谷山: 他塾で英語を習ったことがないのですが、友人の話聞く限り、最初に数か月分のテキストを渡されて、宿題の答え合わせと解説を受けるのが他塾の印象です。一方グノは、毎回の授業で演習、直後に添削、そして詳しい解説というライブ感のある授業です。当然グノの方がモチベーションを保ちやすいと思います。

英文の内容も、先生が私たちの興



谷山 響さん (理Ⅱ・女子学院)

味を惹く題材を選んでくださって、その時々旬の話題も多くありました。英語を学びながら英語以外の知識を身につけられたことはとても有意義でした。

邢: 僕が前に通っていた塾も予習型で、事前に配付されたテキストを授業前に解いてくる授業スタイルでした。グノの授業は、その場で演習してすぐに解説を聞けます。分からなかったところが頭の中に残ったまますぐに解説が聞けると納得しやすいですし、理解も深まりました。

谷山: 他の塾との違いといえば添削です。グノでは毎回の授業で、答案を提出してすぐ添削されたものが返却されて、その場で解説を受けられます。そういう授業は他の塾では聞いたことがありません。

三上: 毎回添削があって、答案がその場で返却されると、コメントからも点数からもそのときの自分の位置や課題がはっきり分かります。いいときには励まされるし、悪いときにも課題がその場ではっきり分かるのでモチベーションが高まります。ちゃんと先生に見ていただけている安心感もあります。

加えて、授業がとてつもなく濃密でした。演習中は気を抜けないし、解説の時間も聞き逃さないように集中するので、時間を有効活用できます。

古川: 授業の内容面でいえば、グノは単語の語源を重要視します。そのため、単語のイメージがつかめて、いくつもの単語が有機的につながっていきます。

谷山: 市販の単語帳を使わないのもグノの特徴でした。他塾に通う周りの人たちは単語帳を暗記していて、私も「単語帳をやらなければならないのかな？」と思ったこともありま

す。でも、グノの授業では語源を説明してくださるので、授業中に先生が

解説されたことや自分でメモしたことなどを毎回復習すれば大丈夫でした。本屋で単語帳を眺めても、分からない単語がそれほど多くなかったもので、最後まで単語帳を開くことはありませんでした。



東野 昌伸さん (理Ⅰ・麻布)

東野: 僕も単語帳をやらないことに不安を持った時期がありました。「授業で扱う英文に出てくる単語だけだと漏れがあるんじゃないか？」という不安です。

実際、英文を読んでいて知らない単語に出くわすことはよくあって、辞書的な定義としての日本語が出てこない不安につながります。でも、大切なのは、そういう単語でも語根や接頭辞、接尾辞などで大体の意味がつかめたり、文脈から推測できたりすることです。

結局、単語帳をやらないまま東大を受験しましたが、入試が終わった今となっては、やらなかったことに問題がなかったところか、メリットの方が大きかったと実感しています。

三上: 他塾の友達は、塾の方針で単語帳を覚えさせられますよね。彼らを見ていたら「自分も同じ単語帳をやるべきなのかな？」という不安に

駆られて、3日間くらい単語帳を暗記しようとしたことがありました。でも、あまりにもつまらなくてやめてしまいました。

それでも模試の結果は友人よりも良かったので二度と単語帳を開くことはありませんでした。単語の丸暗記は英語の勉強をつまらなくしている最大の原因だと思います。その点グノには、面白い英文をたくさん読む中で、言葉の持つ意味を掘り下げながら自然と語彙を増やしていける独自の仕組みがあります。

古川：僕の周りでも全員単語帳をやっていました。僕自身はそこまで単語の暗記に固執する必要を感じませんでした。グノの授業を通して、英文の中でその言葉の意味を押さえていくことや、英文のリズムや流れをつかんでいくことの方がはるかに大切だと思っていたので、その時間を音読に回していました。そのやり方で模試でも困ったことはありませんでした。



古川 倫千さん (理Ⅱ・開成)

グノで重視している音読の効果が分からなくて、単語帳の暗記に力を使う人がいるのだと思います。僕自身は、ちゃんと音読を継続してい

ばいかに英文をスラスラ読めるかという音読効果に驚かされた経験があったので、グノのやり方を信じて続けていました。

谷山：他塾の人たちは、音読するよりも、英文に文構造を書き込むことに一生懸命でした。いろんな括弧を使い分けて書き込んでいく作業は私にはできませんでした。でも、音読をしていれば、そんな作業をしなくても英文の内容をすばやく把握できるようになっていくので問題ありませんでした。

英語の勉強法

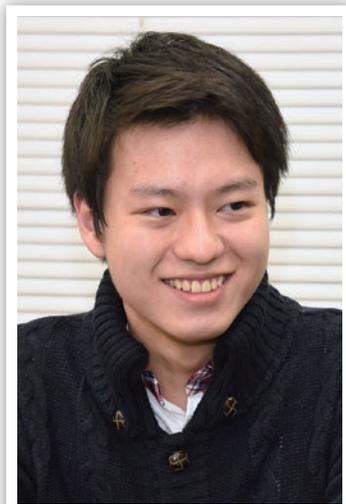
三上：とにかく毎日音読することです。夜に音読しようとする、その日のスケジュールによってできたりできなかつたりします。だから、僕は、毎朝起きる時間を30分早めにして、学校に行く前の時間に、リスニングと音読をしていました。

古川：僕は逆に、夜を勉強時間に充てていました。あまり寝つきが良くなかったので、寝る前にリスニングをしながらシャドーイングをして、いつのまにか寝ている、というパターンが多かったです(笑)。

谷山：私も毎日やりました。英語に1日でも触れないと感覚が鈍るんです。部活の合宿などで触れられない日があると、「やっておけば良かった」という気持ちになります。

だから、どんな勉強でもいいから、1日1回は必ず英語をやっていました。「今日は英作文をやろう」とか「今日はリスニングをやろう」とか、1日で全分野をやろうとせずに、できる範囲で継続しました。

邢：僕も毎日英語の勉強に取り組んでいました。特に力を入れていたのはリスニングです。頭の中で内容をイメージしながら聞くと、英文を前から読む力もリスニング力と一緒に



三上 玄さん (理Ⅰ・早稲田)

鍛えられます。これを続けていった結果、長文もスラスラ読めるようになりました。

東野：皆さんとは違って、僕は短期集中でガッツとやるのが合っていました。1日中日本語を一切聞かないくらいの勢いで英語を詰めたことがあって、それで道が開けました。

グノーブルの数学

谷山：中1からおだ 櫻田先生に教えていただきました。問題を解けたら手を挙げて、先生に見せる、という授業スタイルでした。自分が解けるだけでなく、周りがどれだけできるかも分かって、それがいい刺激になりました。周りができていて自分ができていないときは「他の人が解けるんだから自分もがんばらなきゃ！」と。

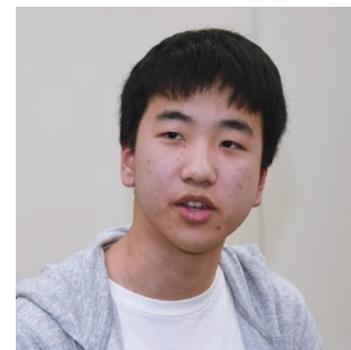
私はもともと算数が好きだったので数学も好きでした。そして、何よりも櫻田先生のお人柄に惹かれました。櫻田先生の授業はとてもたのしくて、数学が好きでない人も好きにさせてくれます。そして、「こういうふうには解かなければダメ」とはおっしゃらず、私が別の解き方をしても

「こういう解き方もあるんだ！すごいね！」と褒めてくださいます。温かくて優しい先生に教わったことで、数学をますます好きになりました。

東野：僕は高3の春から数学を受講しました。最初の頃は「数学ができる」と思い込んでいて、高1までに高校数学を終わらせておいて「これでいける」と信じていました。受験学年に入ったとき、「アウトプットしてみよう」と思ったらアウトプット力が全くないことに気づいたので、以前に勉強した分野も定着していないことに気づいて焦りました。

グノに入って、よくここまで伸びたなと思えるぐらい、長澤先生と林先生に叩き直していただきました。

以前は、新しいことを学んでそれが使える問題だけを解いて次の問題に進む、という浅い勉強をしていたのです。そのため、解法がバラバラで体系的に整理されておらず、パツと問題を渡されたときに、どの分野のどの解法を使えばいいのか分からない状態でした。



邢 明吉さん (理Ⅰ・武蔵)

グノの数学で印象的だったのはセルフチェックシートです。このシートには大きな効果がありますが、出発点は自分の無力さと向き合えるところからです(笑)。やるべきことが多い中で自分がどこに位置しているのかも気づけました。



谷山 響さん (理Ⅱ・女子学院)

解けなかった問題を振り返る機会を与えてくれたのもこのシートです。検証しなければ失敗は繰り返すだけです。敗因を分析して記録を残すと、同じミスを繰り返さないようになります。ただ量をこなすのとは違った質の良さがありました。

谷山：セルフチェックシートがないと、問題を解き散らかす状態になってしまいます。セルフチェックシートを書くには、それなりに時間を取られますが、その分、自分を客観的に見ることができました。「何ができないのか」、「できるようにするためにどうすればいいのか」を考えることができて効果的でした。

自分のことを少し高い視点から見られるようになったお陰で戦略的に数学と向き合えるようになったと思います。

東野：確かに、問題を解くことよりも、セルフチェックシートを書くことの方に時間がかかりました。でも、表に出ている問題と、それとつながっている自分の潜在的な問題点が少しずつ見えてくる時間でもあったので、とても有意義でした。

こうした自己分析を通して解法の引き出しが少しずつ増えて、解ける問題の種類も増えていきました。直前期にはテスト演習の点数にも成果が表れてきました。

グノーブルの国語

三上：高1で古文を受講しました。学校だけだと、まず扱う量が不足すると思います。グノの授業では、古文に触れる量が多かったので、それだけでも力がつきました。

古文単語についても、英語と同じく語源から教えていただけたので、記憶に残りやすかったです。添削も充実していました。

東野：高2で参加したグノの説明会で、吉田先生が古文の重要性を熱く語っていらっしゃいました。高3では数学や理科に全力を注ぐ必要があるから、国語は固められるときに固めておくべきだ、というお話でした。その話には説得力があって、それまで全く受ける気はありませんでしたが、古文を受講することにしました。

実は、学校で中2から古文を3年間やってきて、落ちこぼれのような状態になっていたんです。ところが、グノで高2の1年間古文を勉強しただけですが、全く点が取れなかった古文が得意科目になって、受験のときにも、「古文で得点できる」という精神的な安定が得られました。古文の配点は大きくはないかもしれませんが、入試全体を考えると大きなアドバンテージになったと思います。



東野 昌伸さん (理Ⅰ・麻布)



古川 倫千さん (理Ⅱ・開成)

グノーブルの物理

東野：グノの物理は非常に良かったです。クラスのアウトホームな雰囲気に加えて、カリキュラムがだいぶ特徴的でした。普通の物理の授業と違って、実験装置の絵を見ながら歴史で物理を紐解いていくという姿勢が面白かったですね。僕は化学部でそれまで化学が好きでしたが、それ以上とも言えるぐらいに物理が好きになりました。

授業は高3夏まで講義ベースでした。要所要所で取り組むべき計算がありました。その計算も無駄な計算でなく、歴史的に意味のある計算ばかりでした。講義を聞いているだけで成績が上がっていったので、受験勉強らしい物理でなかったにもかかわらず、不安は一切ありませんでした。

グノーブルの先生

邢：グノの先生方はとてもフレンドリーでした。僕たちのことを名前前で呼んでくださいますし、廊下ですれ違ったときも、どの先生も挨拶をさせていただきます。そうすると、僕たちの方も先生方に親近感が湧いて、先生と生徒の距離が近くなります。

古川：他の塾だと教えている指導歴

が長い先生は、生徒との距離がだんだん離れていきます。逆に、生徒との距離が近いのは、大学生だったり経験の浅い先生だったりします。

グノは、経験の深い先生方であっても生徒との距離が近いです。それはかなりうれしかったところです。

三上：先生と生徒との距離が近いというのは、2人の言う通りです。授業後に質問しに行っても気さくに答えてくださるので、疑問をすぐに解決できました。

谷山：私は中1からグノにお世話になっていて、どの先生も生徒への姿勢が変わらないことを素晴らしいと思っていました。どの先生もとても親身で、困ったときには勉強法についての確なアドバイスをしていただけました。

クラスが落ちて「自分ではどうにもならない」と思ったとき、清水先生に相談したことがありました。清水先生は「こうしなさい」と考えを押し付けるのではなく、私のやってきたことを肯定しながらアドバイスをくださいました。私のことをよく見てくださっているのが分かって、だからこそ心に響くものがありました。

東野：添削などを先生に直接渡せるのも距離の近さでしたね。しかも、受験直前期でも添削答案を早く返却して下さって、先生方の熱意も伝わってきました。生徒一人ひとりの趣味や性格まで把握した上で指導してくださいました。集団指導なのに個別指導みたいな雰囲気がありました。

三上：グノの先生方は、話がとても面白かったですね。設問の考え方や答え方を解説するだけでなく、文章の背景や奥にあるものも話してくださいました。もともと、読みがいがあったり、味わいがあったりする文章を先生が選んでくださっているということもあると思います。お陰で、

文章自体にも興味が湧くし、授業を思い出しながら楽しく復習できました。勉強自体のモチベーションがとて上がりました。

古川：英語の解説が深くて面白いことに留まりません。僕たちが狭い受験の範囲の枠を超えていくことを先生方は応援してくださっていて、それは、授業で扱ういろんなジャンルの英文にも表れていました。

ときには、「もっと世界にアンテナを張った方がいい」とか、「こういうことも想像力を働かせて考えてみるといいよ」などと先生方がおっしゃってくださるのも印象的でした。精神的にも大人になってくると、扱う英文の読み取りも深くなってますます面白さが増します。自分で気づくと、教えてもらってなるほどと思えるのとは違う喜びがあります。それを促してもらえるとところにも、グノが生徒の自主性を重んじている面が表れていると思います。

それから、グノの先生方の、生徒に真剣に向かうという基本姿勢には確固たるものがありました。どの先生にもそれが共通していたので、この塾を信じて懸命にがんばっていくことに、ぶれない安心感がありました。



三上 玄さん (理Ⅰ・早稲田)

先輩へのアドバイス

谷山：スランプに陥るときがあっても、絶対に最後まであきらめないでください。グノに通ってれば、頼れる人はたくさんいます。普段教わっていない先生でも、相談すれば応えてくださいます。だから、一人で抱え込まないで、頼れる人には頼って、最後まで自分を信じて受験を乗り切ってほしいと思います。

古川：確固たる自分を持って、自分を信じられるようになっていかないと、ぐらついてしまうことになりません。演習量でも何でもいいので、「こ

れだけは人に負けないぞ!」と思えるものがあると、それが心の支えになって、受験に集中できると思います。

東野：まず、グノから与えられた教材をきちんと取り組んでいけば絶対に実力アップにつながります。それから、ひとつやふたつできない科目があっても、できる科目で点数を稼げば入試では勝てます。確実にできる科目を築いていくことが大切です。

邢：英語に関しては、グノに通っているなら、毎回の授業で配付されるプリントを大事にしてください。プリントは、毎週先生が本気で選んで

くださったものです。生徒の方も、本気で読み込んだり音読したりして活用すべきです。先生方の熱意に応え続ければ、絶対に実力がアップします。

三上：疑問があったら先生に質問すべきですし、他の人が質問しているのを聞くのも勉強になります。「先生がおっしゃっていることは全部聞こう」という気持ちでいけば、先生方からたくさんのお話を吸収できます。グノの先生方を信用して最大限活用する、という気持ちで臨んでほしいと思います。

11期生 合格者インタビュー

東京大学 理系

— Part 2 —

あだち みつよし
安達 充慶さん (理Ⅰ・筑波大学附属駒場)

なかしお りょう
中塩 瞭さん (理Ⅱ・渋谷教育学園幕張)

えんどう たける
遠藤 建さん (理Ⅱ・渋谷教育学園幕張)

ふかだ たいが
深田 大雅さん (理Ⅰ・筑波大学附属駒場)

さとう ゆうき
佐藤 祐希さん (理Ⅰ・筑波大学附属駒場)

まつい あやり
松井 彩里さん (理Ⅰ・渋谷教育学園幕張)

●PDFフルバージョンでは、「英語が伸びた時期」、「グノーブルのシステム」もお読みいただけます。
www.gnoble.com/gnolet19/



グノの物理の授業は大好きだったし、ものすごく楽しかったです。昔の科学者が考えていたことをたどりながら進めていく授業スタイルで、考えるのが好きな僕には刺激的でした。

佐藤 祐希さん (理Ⅰ・筑波大学附属駒場)

入塾のきっかけ

遠藤：グノに入ったのは高2の冬期講習からです。それ以前の1年間は大手予備校に通っていましたが、1回の授業で扱う英文の量が少なく、

もっと英文をたくさん読める塾を探し始めました。そんな頃、学校の合格体験記で先輩がグノを高く評価しているのを見つけて、それがグノに興味を持ったきっかけです。すでに通っていた中塩君の話も聞いてみて、

入塾を決めました。

松井：私は高1の3学期から英語で通い始めました。それまではずっと習い事が忙しくて、学校との両立で精いっぱいでした。高1の冬に習い事を辞めて塾探しをしたとき、「英

語を英語として読む」というグノの評判を聞いて、グノに興味を持ちました。グノに通っている友達からも話を聞いて、他塾と比較検討した結果、入塾することを決めました。



安達 充慶さん (理Ⅰ・筑波大学附属駒場)

中塩：僕は、中1になる春のスタートダッシュ講座*から英語で通っていました。姉が、塾に通わずにいたら英語が苦手になってしまって、後々苦労していたんです。それを見ていた母親がグノを見つけてきました。語源から英単語を学ぶなどの方針に共感したそうです。

中1の頃、浪幕生は僕だけでした。高2のあたりから増えました。グノについて僕に聞いてくる友達がいましたし、僕が勧誘して入塾した友達もいます。他塾の英語に不満を持っていた友達には、グノを強く勧めました。

松井：私がグノに通い始めた頃も、浪幕のグノ生は3、4人くらいでしたのでグノに関する評判もほとんどありませんでした。でも、中塩君が言う通り、どんどんグノに通う人たちが増えて、「グノに通ったら英語ができるようになる」という評判も耳にするようになりました。私自身

もグノに通って成績が一気に上がったので、グノについて聞かれることもありました。

安達：僕は高校受験のときに通っていた塾で春期講習の英語を受けてみましたが、授業の内容に満足できませんでした。かといって高校に入学して、学校の英語だけなのも不安でした。

それで、『高校への数学』の裏にグノの広告が載っていて気になっていたので夏期講習に参加してみたところ、「ここの英語は楽しくて力がつく」と思えて通い続けることにしました。

佐藤：中3の夏に、「英語でどこかの塾に入ろう」と思いました。「塾の宿題が多くて終わらない」と皆が言っているところは大変そうなので候補から外しました。

そんなとき、友達のお母さんが、高校時代に中山先生に教わったということで、僕にグノを紹介してくれました。僕自身はあまり塾について調べたわけではなく、他塾との比較もほとんどせずに、グノに入塾しました。

深田：僕は、高1まで塾に全く通わず、数学は参考書で勉強していました。高2の春になって、ベクトルが自分では手に負えなくなったので、ベクトルを教えてくれる塾を探しました。

グノの春期講習にベクトルを速習できる講座があったので、グノについてはよく知らないまま受講してみたところ、とても分かりやすかったので数学で入塾して、グノの雰囲気や教え方が気に入って、その後、高2の夏から物理と化学、高3の春から英語も受講しました。

グノーブルの英語

遠藤：もともと通っていた予備校は予習前提で、授業はその解説でした。そういう授業スタイルだと、家で自習するのとあまり変わりありません。

グノの場合、授業は演習から始まって、その場で解説も受けられるという完結型なので、やる気も湧くし、内容をしっかり消化できるのでありがたかったです。宿題も授業で扱った英文の音読が中心ですから、机に向かう必要もなく、本当に机に向かわないで復習を済ませていました。

中塩：授業中に集中して取り組めるのがグノの授業ですし、極端に言うと、授業に集中しているだけでも力をつけられると思います。

まず、グノの教室には、最初から真剣に取り組む空気ができています。授業最初の演習は添削対象だし、その後の演習も、周りの空気が引き締まっていますから、しっかり頭を使って解いていました。

そして、真剣に取り組めると課題が浮き彫りになりますし、すぐにその場で解説が始まるので、問題点が腑に落ちるといふか、印象深いもの



遠藤 建さん (理Ⅱ・渋谷教育学園幕張)

になります。

グノの場合、解説が細かな単語や文法事項に留まることは絶対にありません。全体の流れや構成などの大局的な面にも及ぶし、さらには背景的なことまで先生が語ってくれるので、授業に出ているだけでも、知らず知らずのうちに全体の流れをつかみながら英文を読むようになります。

僕はいつも一番前の席に座って、先生を独占している気持ちになって聞いていました(笑)。

佐藤：よく先生がおっしゃっていた言葉の中に、「語学はスポーツや楽器の練習に似ている」というのがあって、授業で扱った英文を、何度も何度も音読をして振り返れば、英語力は伸ばせます。

問題は、そのモチベーションをどうやって上げるかですが、グノの授業内添削、なかでも、要約の添削が僕にとってモチベーションになりました。毎回つけられる点数に一喜一憂しながらも、楽しく取り組みました。

点数がいいと「ここがこう読めていたからできたんだ!」とうれしくなりましたし、悪いと「この英文は



佐藤 祐希さん (理Ⅰ・筑波大学附属駒場)

読めなかった」という印象と一緒に英文内容が頭に残ります。復習のときは、解説のメモを見直しながら理解を深めて、懸命に音読していました。

先生に気軽に相談できたのもモチベーションアップに役立ちました。高2までの僕は要約の点数は常にポロポロでした。高3のときにもスランプに陥ったことがありました。それぞれの担当の先生に相談して考え方や勉強法を見直しながら、レベルアップにつなげることができました。

深田：受験直前期にも、「過去問ばかり解くのではなく、今まで取り組んできた、馴染みのある英文を読み込んでください」と先生に言われていたのが印象的でした。このアドバイスがグノっぽくて良かったと思います。

確かに、過去問を解いていると、「がんばっている」感が出ますが、実際には身につくことがあまりありません。東大模試を受けていけば最新の出題傾向には対応できますし、過去問はある程度遡ると傾向がガラッと変わっていて参考になりません。だから、何年分も解く必要はないと思います。僕も英語の過去問は1年分しか解いていません。

その代わりに、今まで取り組んできた英文を使って知識を確認し、読み込むことに力を入れました。この過程を通して、英語感覚は研ぎ澄まされます。読解力だけではなく、英作力やリスニング力も鍛えられると思います。

安達：英単語を語源から理解するのもグノの英語の特徴です。これを初めて知ったとき「なるほど!すごい!」と感動しました。

語源から単語を解説されると記憶に残りやすいですし、その言葉のイメージもいっしょに持てるので、一対一対応で応用の利かない丸暗記とは全然違います。前置詞にしても



中塩 瞭さん (理Ⅱ・渋谷教育学園幕張)

「toは矢印があつて……」とか「ofはここからポコンと出ている感じで……」とか、そういうイメージを教わったので、「空欄に前置詞を入れよ」みたいな問題が出題されても応用が利きました。

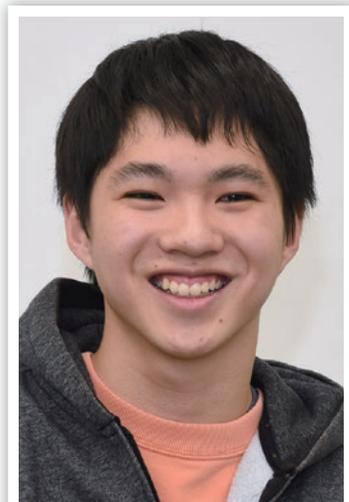
何よりも、解説のときの先生の動作が印象的でした。先生が体を使って英単語の根本のイメージを表現されるんです。takeとか、upholdとかを先生が体で表現していくのを見ただけで楽しいですし、英文を読む際も、語順のまま生き生きと内容をイメージしながら読んでいくにも活かしました。

この感覚を意識しながら授業で扱った英文の音読を繰り返すことで英語力が上がったと思いますが、グノで学べたのは、受験対策としての英語というより、ネイティブ感覚に近づくための英語でした。普通に英語を読んだり書いたりできるようになることを目指す授業だったとも言えます。

松井：グノの教材は本当に知的で面白いものが多かったです。時事ネタも豊富ですし、教科書ではとても出会えない興味深いものばかりでした。そういう英文を自力で読んでも、

分からないところがたくさんあります。でも、先生が細かく解説してくださって、英文のバックグラウンドも詳しくお話しして下さるので、そこから一気に理解が深まります。その英文を家に持ち帰って復習していると、新たに分かってくることもあって、心から楽しんで何度も音読していました。

東大の入試本番でも、グノの教材と同じように内容が深い英文が多くて、試験時間中にもかかわらず楽しく読むことができました。お陰で、狙い通りTLP(トライリンガル・プログラム)*に選ばれたのは幸いでした。



深田 大雅さん (理I・筑波大学附属駒場)

グノーブルの数学

中塩: これは、どの科目にも言えることですが、「勉強しようかな」と思えるきっかけを与えてもらえて、「この科目は楽しい」と実感できるまで導いてもらえれば、後は自主的にその科目に向かえるようになります。その意味で、中3から始めたグノの数学には感謝しています。

それまでは数学を全く勉強していませんでした。数学へのモチベーションが上がったのは、^{おた}櫻田先生のお陰だと思っています。授業中にもよく僕は絡んでもらえたので、授業に出席しているだけでも楽しかったです。

深田: 数学はもともと苦手ではありませんでした。ただ、学校の授業が学年に沿った進み方だったので、先取りしたいと思ってグノに入りました。

特にお世話になったのは田部井先生です。添削がとても細かいし、相談にも乗ってくださるし、補講を頻繁にやっていただけだったので、とても助かりました。

高2のときは毎週の添削課題が楽しくて夢中になって解いていました。考えること自体を楽しめる問題を毎回用意してもらえたり、細かな添削が返ってくるのも楽しみでした。これがきっかけで、数Ⅲにも興味を持って自然に入っていました。

佐藤: グノの数学は一人ひとりをしっかり見てくれて、こっちに合わせて導いてもらえるので本当に助かりました。

僕の場合、中3で学ぶ幾何が悪手になってしまい、学校のテストでも平均点より10点も20点も下の点数を取っていました。それで、英語といっしょに数学もグノでお世話になることにしました。

グノの数学は、中学の間は授業中に問題をどんどん解いていくスタイルです。こっちがつまずいていると、それに応じてヒントやアドバイスがもらえます。そのうちに周りのペースより先に進むようになりましたが、そのときにも先生が答案を丁寧に見てくださいたり、調子がいいときには別の面白い問題がもらえたりしました。

学年が進むとセルフチェックシートを使うようになりましたが、これ



井井 彩里さん (理I・渋谷教育学園幕張)

にはすごくメリットがありました。先生から指摘してもらった勉強から、自分のことを客観的に見る姿勢へと、勉強法が大きく転換というか、進化していく感じでした。

特に、数学に得意意識を持つようになると、分かっているところは先生の解説もあまり聞かなくなります。その結果テスト演習で「やっちゃった」となることもありました。そうした反省点を自分でセルフチェックシートに書いていくんです。

田部井先生も長澤先生も、適当に問題を選んでくれるわけではなく、「ここを押さえてほしい」という意図のある良問を僕たちに提供してください。それにひっかかったときは、その大切な点を自分の言葉で咀嚼してセルフチェックシートに書きました。しょうもないところでミスったときは、その悔しさを書きました。

セルフチェックシートは、自分の弱点をピンポイントで把握できると同時に、先生がシートをちゃんと見てくださいますから、先生とのコミュニケーションツールとしても有効でした。

深田: 僕は、自分の答案を見て恥ず



安達 充慶さん (理I・筑波大学附属駒場)

かしく思っていました。でも、セルフチェックシートがあるから、恥を捨てて客観的に自分を見つめられました。どこで自分が変な道に進んだのかを把握して、厳密に論証できるようにになりました。

正しい答えが出せたときにも、たとえば、「ここはこういう同値変換でいいのかわかるか」といった疑問が湧くことがあります。それをシートに書いておくとちゃんと先生が答えてくださるので役立ちましたし、信頼できる先生が見てくださっているのは励みにもなりました。

グノーブルの国語

中塩: 高1で古文を1年間受講しました。吉田先生は話術が巧みなので、授業にグイグイ引き込まれました。

吉田先生に古文を習うと、現代とのつながりが見えてきます。時代によって変化することと変化しないことがあります。先生のそういうことへの指摘や分析を聞くのは興味深かったですし、日本人特有の感性を意識化できたこともあって、現代にも通じる古文の面白さに気づかされた1年間でした。

深田: 高3で東大国語を受講しました。僕は国語が苦手、現代文を読

んでいても、「どうしてこんなに偉そうな書き方をするんだ」という感想しか持たなくて、内容はまるで理解できませんでした。

吉田先生は、そういう現代文を分かりやすく噛み砕いてくださるので、先生の話をしていると、モヤッとしている文章の霧が晴れていくようでした。ポイントも的確に話してくださいましたので、文章理解が深まりました。答案の書き方もしっかり教わったお陰で、全然できなかった国語が人並みにはできるようになりました。

佐藤: 僕が東大国語を受講したのは、高3の冬になってからです。それまでやってきた国語の勉強と、高得点になつたり平均を割つたりして安定しないテスト結果について吉田先生に個人的に相談しました。「あなたは読んでいるけれど、書いていません」と先生から指摘されて、僕はハッとさせられました。

答案の作り方を先生から実践的に指導していただいたお陰でコツがつかめて、超得意とは言えなかったかもしれないですが、それなりに現代文はできるようになりました。

実は、冬期講習は予備校にするかグノにするか悩みました。大人数のクラスで授業を受けるのはきついし、多くの受験生と同じことをしても差がつかないような気もしました。だから、信頼できる先生に個人的に見てもらった方がいいと思い、グノの国語を受講しましたが、大正解でした。

グノーブルの物理・化学

佐藤: グノの物理の授業は大好きでしたし、ものすごく楽しかったです。昔の科学者が考えていたことをたどりながら進めていく授業スタイルで、考えるのが好きな僕には刺激的

でした。自分の頭で考え抜いて「これだ!」と分かったときには、小学生みたいに純粋に喜んでいました。

物理については「下手の横好き」でしたが、結果として人並みの点数は取れるようになりました。ただ、そうした点数的なこと以上に、楽しかった授業の思い出は貴重な財産になりました。もともと地学が好きなので、大学では地学分野に進もうと思っていたのですが、今では物理分野にするかどうかで迷っています。一般教養課程では、絶対に物理を履修するつもりです。

深田: グノの物理については僕もすごく楽しんだし、大好きでしたが、佐藤君が話してくれたので、僕は、化学について話します。

もともとグノには化学がなかったもので、高2の1学期は大手予備校に通いました。問題に対しての考え方や速く答える方法を教えてくれるので、それはそれで役立ちましたが、夏にやっとグノで化学が開講されたので夏からはグノに移りました。

グノの化学は、実験をその場で見せてくれます。開講当初は実験の不手際もありましたが(笑)、やはり実物は印象が違います。グノの授業は、予備校と違って受験のテクニックではなく本質を教えていただけました。数学と化学を同じ日に受講できるのも魅力でした。



遠藤 建さん (理II・渋谷教育学園幕張)

*入学時に一定レベルの英語力を有すると認められた学生(上位一割程度)のうち希望者を対象に行われ、日本語と英語に加え、もう一つの外国語の運用能力を鍛える教育プログラム。(http://www.cgcs.c.u-tokyo.ac.jp/tlp/)

グノーブルの先生

遠藤：どの先生もすぐに顔と名前を覚えてくださるので、親近感が湧きました。質問をしやすかったのが良かったです。

そういうグノが僕は本当に好きで、絶対に休みたくありませんでした。でも、1回だけ風邪で休んでしまい、このとき、「休んだ週の教材をどうすればいいですか?」と先生にうかがったら、「提出してくれたら添削します」と言っていました。実際に提出したら、その添削以外に、授業内容などをB5の用紙2枚にびっしり書いてくださいました。ここまで丁寧に対応してくださったのは大感激でした。



佐藤 祐希さん (理I・筑波大学附属駒場)

安達：グノでは、どの英語の先生も、自分にはとうてい到達できないくらいの英語力をお持ちでした。単に受験の英語というのではなく、英語そのものに普段からたくさん接していらっしゃるんだらうというのが伝わってきました。

英語が大好きで、毎日たくさん英語に接していなかったら、あんなに面白くて新鮮な教材を用意できるわけがありません。授業中の解説からも、生徒がする質問に対する受け答えを聞いていても、深く鋭いもの

が端々からうかがえました。

先生方に圧倒的な実力があって、英語に対する情熱を持ち続けているのが伝わってくるので、信頼感も増しますし、こちらとしては安心して、楽しく授業を受けられました。

松井：先生方が英語についての知識が豊富なのもすごいなと思っていましたが、教養が深く、世界情勢にも通じていらっしゃるということに感動していました。

ものごとを評価して考える軸をしっかりと持ち兼ねるので、英文に書かれていることが深く分かるということかもしれません。しかもその軸のバランスがとれているので、私たちの心にも響いて、こういう大人になりたいという気持ちにさせられるのだと思います。

佐藤：本当にユニークな先生ばかりでしたけれど、どの先生も楽しそうに授業をされるのは共通です。先生が楽しそうにされていると、授業を受けている僕らも楽しい気持ちになります。

楽しい授業が実現されるのは、先生方がその科目に精通されているからだろうし、それから、生徒たちを下に見ていないからだだと思います。

そういう先生方だから、相談にも行きやすいし、数学や物理の場合、先生と一対一でお話する機会も多くて、純粋にうれしかったです。

深田：本当に、質問しやすい先生ばかりでした。どの先生でも、質問すればしっかり聞いてくださるし、質問の量が多くても嫌がらずに、一つひとつ解決してくださいます。その親しさは勉強のモチベーションにつながります。

予備校だと、先生が神様みたいなポジションにいますので、先生に話かけにくいですが、授業が終わると先生が真っ先に職員室に帰ってしまうのも普通です。生徒が多いので先



中塩 瞭さん (理II・渋谷教育学園幕張)

生の前に行列ができてしまったりもします。気軽に質問する雰囲気ではありませんでした。

中塩：グノだと先生の心が僕たちに開いているので質問にも行きやすいし、仮にその場で分からないことでも、すぐに対応してくれます。

以前、カタラン数に興味を持ったことがあって、それについて櫻田先生に質問したことがありました。「なるべく早く応えるから」と言われました。回答は翌週かなと考えていたら、次の日の夜には電話があったんです。こんなに早く電話をくださった櫻田先生の誠実さに本当に心打たれました。

後輩へのアドバイス

遠藤：東大は合格点が低めです。そのため、苦手な科目があっても他の科目で挽回できます。だからこそ、グノで言われた通りに勉強して、英語を得意科目にしてほしいと思います。グノで勉強すれば、英語が苦手な人から、松井さんみたいにTLP(トライリンガル・プログラム)*が取れるレベルの人まで、英語をしっかり伸ばせるし、英語は安定して得点できる科目です。グノを信じて勉強をがんばってください。



深田 大雅さん (理I・筑波大学附属駒場)

安達：東大はそんなに簡単に入れる大学ではないと思いますが、根気よく勉強を続けられれば、絶対に入れない大学でもありません。そこで大事になってくるのは志望理由です。

「最難関だから」という適当な理由で東大を目指すのではなく、「自分はこういう分野をやりたいから東大に行くんだ!」という目的をしっかり持ってほしいと思います。それが、根気よく努力し続けられる力の源になります。

佐藤：僕は、目指すべき専門分野も決まらず、「教養学部があるから」という理由だけで東大を選びました(笑)。

それでも最後まで勉強を続けられたのはグノの先生方のお陰です。僕は、「今後どういう勉強をしたらいいですか?」という失礼なくらいアバウトな質問をいろいろな先生にしましたが、どの先生も本当に丁寧に答えてくださいました。受験勉強をしていると、悩みは尽きません。そういうときは、いちいち悩まずに、グノの先生に相談するのが一番の近道です。相談をして、先生に答えていただくと、ちょっとこっちの背筋も伸びるというか、しっかりやろうという気持ちにつながります。

深田：グノでは予習はそれほど求められないけれど、復習はとても大切

です。復習をきちんと積み重ねていけば絶対に学力が上がります。

それから、菊島先生がおっしゃっていたことですが、根拠のない自信を持ってがんばることも大切です。「自分には届かないかも」と後ろ向きに考えていると自分で自分にブレーキをかけてしまうと思います。

中塩：僕も根拠のない自信を持つのがいいと思います。東大といっても、コツコツ積み重ねれば受かると僕は思っています。僕自身、中1の頃は東大を神格化していました。でも、東大に合格する人が多い環境に身を置いているうちに、自分の中でも東大が近いものに思えてきました。現実味を帯びた目標ならば、勉強を続ける気にもなります。東大を目指す人は、気負わず気楽に勉強してください。

松井：受験勉強は正直つまらないと思っていました。同じことの繰り返しで、紙に書くだけで新しいことは何も生み出していないからと。

でも、グノでの勉強はとても楽しいものでした。受験より広い世界が見えてきたし、今やっていることが将来の自分の力になると確信が持てたからです。

そういう勉強をしていけば、受験の直前期も苦しまなくて済みます。気負わず気楽に勉強しながら、グノでの勉強を思いっきり楽しんでください。



松井 彩里さん (理I・渋谷教育学園幕張)

*入学時に一定レベルの英語力を有すると認められた学生(上位一割程度)のうち希望者を対象に行われ、日本語と英語に加え、もう一つの外国語の運用能力を鍛える教育プログラム。(http://www.cgcs.c.u-tokyo.ac.jp/tlp/)

11期生 合格者インタビュー

東京大学 理系

— Part 3 —

いとう ゆうご 伊藤 雄吾さん (理Ⅱ・栄光学園) ひらおか たけお 平岡 健央さん (理Ⅰ・小石川中等教育)

しかの ゆみ 鹿野 友美さん (理Ⅱ・晃華学園)

●PDFフルバージョンでは、「学校での評判」、「グノーブルの先生と環境」もお読みいただけます。

www.gnoble.com/gnolet19/



国語の参考書では、「そんなの絶対に書けそうにない」という解答例が多く見られます。先生はいつも、私でもがんばれば手が届きそうなレベルで解答例を示してくださったので、お手本にしやすいです。

鹿野 友美さん (理Ⅱ・晃華学園)

入塾のきっかけ

伊藤：『高校への数学』でグノの広告を見たことがきっかけです。「英語を英語のまま、言語として学ぶ」という内容のことが書いてあって、「どんな塾なのかな？」と心惹かれるものがありました。そこで、中3のときに夏期講習を受講しました。

当時は英語が苦手で「英語を何とかしよう」と思っていたこともあり、大手予備校や他の塾など5、6箇所比較検討しました。グノは他と違って、先生と生徒の距離が近かったのが好印象でした。先生が、夏期講習しかとっていない僕の顔も名前も覚えていて、授業中も指名してくれました。先生とのコミュニケーションがうれしくて、僕はグノへの入塾を決めました。

鹿野：私は、中1からグノの講習に参加していました。小学生の頃から英語塾に通っていたので、中学校の英語だけでは物足りなかったからです。学校の英語の授業はアルファベットから始まります。さすがにそれは書けたので、「文法や英単語、フォニックスなどをきちんと教えてもらえるところで学びたい」と思っていました。

そんなとき、父が「グノの英語がいい」という評判を聞いて、私をグノの講習に参加させてくれました。英語が大好きな私は、受験を意識することなく、「もっと英語を楽しみたい」という気持ちで講習に参加していました。



伊藤 雄吾さん (理Ⅱ・栄光学園)

本格的に通塾するようになったのは中3の秋からでした。予備校とも比較しましたが、グノが英語を学ぶのに最適な環境だと思ったのです。グノの先生は発音がとてもきれいで、

そのことが「グノに通いたい」という動機にもなりました。

平岡：僕は、受験勉強を始めようと決意した高2の夏、「英語を伸ばしたい」と思って英語に強い塾を探しました。ネットでいろいろ調べた塾の中で、英語の評価が一番高く、「楽しい」という声が多いのがグノでした。英文を前から読んでいくのも斬新で興味を持ちました。

グノーブルの英語

伊藤：音読を推奨してくれたのが良かったです。音読のお陰で読むのが速くなったし、リスニング力もつきました。聞き取りにくい単語も、自分で発音できるようになると次からは聞き取れるようになります。

鹿野：音読をきちんとやっておくと、英文を速く読み進められるようになります。学校の授業中も、どうやら私は周りの人よりかなり速く読めているようでした。入試本番で緊張していても、英文を読み始めれば内容が頭に入ってきたので落ち着けました。それぐらい実力を養えました。

でも、グノでは常に刺激を受けていました。高1の頃、私は「英語が



鹿野 友美さん (理Ⅱ・晃華学園)

好きで得意だ」と思っていたのですが、最上位のαクラスに入ったら、私よりできる人がたくさんいました。そして何より、グノの先生の解説には深みがあって、「自分はまだまだだな」と気づかされていました。

「好きなことで負けたくない」という一心で一生懸命勉強しました。文法を復習し直したり、感覚で訳していた単語を辞書で調べたりしました。音読もますますがんばって、英語が安定して得点源にもなりました。平岡：僕がまずうれしくて感動したのは、「市販の単語帳を使わなくていい」と最初の授業で言われたことです。単語帳を使っただけの勉強がとても嫌でした。やっけても、「これは意味のある勉強なのかな？」という気持ちでした。

そんな僕にとって、グノの英単語の解説は、聞いていても楽しかったし、先生がその動作をやってくれたり、黒板に単語イメージを絵にしてくれたりするときは、ワクワクして見入っていました。1つの単語と関連付けていくつも単語に広がっていったり、ある単語がどのように意味を派生していくかの解説には、ちょっとしたドラマを感じて、記憶

にも残りやすくなりました。

学校では、単語帳を暗記している人たちが多かったです。「単語帳をやらなくて不安にならないの？」と彼らに言われたこともあります。でも、「グノのやり方で大丈夫」という確信があったので、まったく不安になりませんでした。むしろ、休み時間に必死で単語帳をめくっている人たちを見ながら、「時間があったいな」と、優越感に浸っていました(笑)。

鹿野：グノの単語の覚え方は、語根から語彙を広げていく方法です。同じ語根でも、接頭辞によっていろいろな単語に分かれていきます。先生が黒板を使って一つの語根を中心にどんどん広げてくださいと、私も毎回見入って感心していました。

この覚え方だと、しばらく出会っていなかった単語を見てもパッと意味が浮かんできます。これまで知らなかった語でも同じ語根の単語を思い出してイメージを広げ、その場で推測もできます。多義語の場合でも、その語の成り立ちと文脈からだいたいの意味は分かります。単語帳を使って英単語と日本語の意味を一对一で覚えていたらまずできないことです。

伊藤：単語帳の暗記は、学校でテストがあったのでそれだけはやりました。ただ、「単語帳だと応用が利かない」と実感していました。新しい単語に出会ったとき、その語が単語帳に載っていないものだったら、意味が全く分からなくなってしまいます。でも、語根から単語の意味を推測するというグノの方法なら、知らない単語の意味を推測できたり、ど忘れした単語の意味を思い出せたりします。

多義語と言われている単語も、語源から捉えずに丸暗記するなんて、本当にやっていられません。語源を考えれば、一見バラバラに見える意

味が繋がって、すぐに覚えられるだけじゃなくて、ちょっと感動的なものになります。

平岡：単語の覚え方以外にも、英文を前から解釈していくのも魅力でした。もちろん、最初のうちは上手く解釈できませんでした。でも、グノの読み方が自然だと思っていたので、抵抗はありませんでした。少し慣れたら、英文を読むスピードが格段に速くなったという手応えがあったので、「これでいける」と確信しました。

鹿野：英文を前から解釈していくことに慣れれば、返り読みよりも圧倒的に速く読めるし、内容を確実に理解できます。特に倒置や強調構文、省略のある英文だったら、前から解釈していかないとものすごく苦労すると思います。

難しい英文を和訳する問題でも、語順通り読んでおおよかな意味を把握して、それからきれいな日本語に直す方が効率的です。

でも、最初の頃の私は、英文を前から理解することができませんでした。グノの授業で先生に当てられたときも、日本語らしい順番に入れかえて訳していった、「ちょっと待って」と何回も注意されました。



平岡 健央さん (理Ⅰ・小石川中等教育)

そういう状況だったので、初めは英文を2、3語くらいずつ切り分けて、無理矢理解釈していきました。日本語としては意味がぐちゃぐちゃになっても気にしないようにしました。

こうしているうちに、頭の方がこの語順での解釈に慣れて、2、3語ずつより長い区切りでも理解できるようになり、そのうち長いままで前からきれいに解釈できるようになりました。

もちろん、テストでは前から訳した日本語をそのまま書けないので、訳が成立するようにきれいに整理しますが、その作業はすごく簡単でした。

伊藤：僕の場合は中3からグノのお世話になりましたが、当時、学校の英語は文法がメインでした。そのため、グノで英文解釈をスタートした形になって、前から意味を取っていくことにはすんなりなじめました。

ただ、そのやり方に慣れ過ぎていたために、僕の場合は日本語としての順序がひどいことになって、模試の和訳問題でかなり減点されることがありました。英文の意味を把握することはスラスラできて、それを日本語らしく直す作業にむしろ苦労しました。



伊藤 雄吾さん（理Ⅱ・栄光学園）

英語の勉強法

鹿野：最初の頃の私は、「この文章はこういうことを言っているんだろうな」という推測に頼って解釈していましたが、高1になって文章が難しくなってくるとそれでは対応できなくなりました。

そのことを当時の先生に相談して、いただいたアドバイス通り、あいまいな単語の意味は紙辞書で調べつくして、文法的な構造もしっかり捉え直し、その上で音読にしっかり取り組みました。徐々に英文を論理的に読めるようになりました。受験までまだ時間があって余裕もあったので、かなりの時間をかけていました。

なかでも音読の効果は絶大でした。先生は「1日10回は音読しよう」とおっしゃっていたので、それを実行しました。登下校でバスに乗っている時間が長かったので、その間マスクで口元を見えないようにしてブツブツ音読しました。学校の昼休みなど、時間のあるときにも音読しました。一日中音読できなかったときは寝る前に取り組みました。2、3回しか音読できない日もあれば、2、30回の日もありましたが、1日平均10回くらいにはなりました。

平岡：高2の夏にグノに入ってから音読を続けていた結果、高2の1月には英文を読むスピードが速くなっていました。その頃気づいていたのが、ただ情報を読み取ればいい科学系の英文はかなり正確に読めても、深みのあるエッセイとか、論理構成をしっかり追う必要がある英文だと、内容が全然頭に入ってこないということでした。

「このままじゃだめだ」と思っていたその頃に、中山先生が授業中にピアノの練習に例えてくださった話がすごく参考になりました。

毎回の授業で用意される英文を練習曲の楽譜とすると、最初の演奏は

初見での演奏です。僕たちがうまく弾けないのは当たり前です。先生が解説のときに読んでいくのは、お手本演奏です。先生は、「コンサートピアニストほど上手くは弾けないけど、一応先生なんだから正しくは弾ける」とおっしゃっていました。先生の解説を聞いて「こんな曲だったんだ」と僕たちが分かったら、家でスラスラ弾けるまで練習するのです。英語の場合、その練習の中心が「音読」です。

そこで、僕も「先生の真似をして読もう」と決めました。授業の解説を思い出して、細かな前置詞のイメージにまで気を配り、パラグラフごとのつながりのような大きな枠組みに至るまで意識して音読しました。トピックセンテンスを読むときには、「今からこんなことを話します」という意識を持って、抑揚をつけながら音読を続けました。

これの継続で英文を深く読めるようになったと思います。高3の冬までには、東大でよく出る文学的な文章も読解できるようになりました。

鹿野：私は特に要約の文章を音読するようにしていました。私も、先生の解説を思い出しながら、「どこが大事か?」「この文章は何を伝えたいのか?」を意識して、聞いている人にそれが伝わるような読み方を心がけました。強調したいところの前後で間をあけて読んだり、一番大切な文章をちょっとゆっくり読んでみました。私はスピーチコンテストにも出ていたので、グノの英文でコンテストに出場するつもりで、「この読み方だったら、コンテストで優勝できるな」と思えるくらいまで読み込んでいました。

2、3回目くらいまでは発音や行替えてつかえて気持ちが入っていきません。でも、7、8回目くらいになると、「ここは抑揚をつけ損ねた」とか「大事なところはここだったの

に、コンマの区切りを間違えた」とか、そういうところを完璧にすくなっていきます。10、11回目くらいでようやく自分で納得できる読み方ができて、そうすると達成感も味わえて楽しかったです。

伊藤：英語力の伸びを一番実感できたのは受験直前です。高3では本当に音読しかしなかったのに、音読のお陰で伸びたと思います。高1の頃、英語ができなくて苦しんでいろいろなものに手を出しました。それらを全部捨てて音読だけに絞ったら成績が上がりました。

先生が「プレゼンするつもりで英文を読むといい」とおっしゃっていたので、僕も挑戦したところ、この読み方が僕に合っていました。

それから、GSL*を聴きながら、その音声に自分の発音を近づけるようにして音読をしました。その結果、実際に話してみても、スムーズに英語を話せるようになりました。かなりいい感じになったと思います。

鹿野：GSLと自分の発音を比べながら音読すると、イントネーションがよくなりますし、英会話にも効果的です。相手が何を言っているのかを何度も聞き返さなくても1回で聞き取れたり、いろいろ一気に喋られてもそこから何を言いたいのかを掴んだりできるようになりました。

日常的な英会話なら、英語の勉強を本格的にはしていない人でも、自分の言いたいことを身振り手振りで相手に伝えられます。でもディスカッションになると、それでは言いたいことが言えません。だから、「こう言いたいときはあの文章であいう言いたい回しをしていたな」とか「ここを強く言いたいんだからこういう言い方をすればいいんだな」とか、いい表現をストックすることが大切です。そのためには、いい文章をたくさん音読するのが一番です。

平岡：英文を前から読むことに慣れ



鹿野 友美さん（理Ⅱ・晃華学園）

ると、話すときも英語のまま考えられるので、言葉が出やすくなりました。修学旅行で海外に行ったとき、僕の友だちは日本語で考えてから英語に直すので、言葉を発するまでに時間がかかっていました。僕は結構スラスラと言葉が出てきました。

グノーブルの数学

平岡：高校2年のとき、英語と一緒に数学も受講しました。

田部井先生に教わったのですが、「こんな授業があったんだ」と、分かりやすさと、深い理解ができることに本当にびっくりしました。

それまで受けてきた授業では、各単元の要点を教えられて、後は演習を重ねて解き方を身につけていただけでした。田部井先生の授業は、本当に根本から「なぜこうなるのか?」という原理を解き明かしていく授業だったので興味深かったし、興味が持てることは深く理解できません。僕は数学が得意ではありませんでした。でも、田部井先生の授業を受けてから、数学が本当に好きになりました。

1月からの長澤先生の授業では、「数学における行動すべてに理由を付けて動きなさい」と何回も言われ

ました。「今の自分の問題は何か?それを解決するには何が必要か?そのために今の自分に必要なのは何か?」を常に考えさせられる授業でした。

数学では、問題を解くための道具をいろいろそろえていくことになりませんが、「この問題にはこの道具」と機械的に組み合わせを覚えて計算しているだけでは、思考力を鍛えていることにはなりません。「自分が何をしようとしているか」、「なぜこの道具を選ぶのか」といったことに意識が向かい、その意味を捉えられて、説明もできるようになるにつれ、数学は面白くなります。そして成績も伴います。

こういう姿勢は、数学だけでなく、さまざまな場面で役に立つと思います。実際、国語の論説文への向き合い方も変わってきて、国語の成績も上がりました。

セルフチェックシートも役立ちました。まず、常に自分のできないところを見つめることが習慣化されました。自分で解決の糸口に気づきやすくなりました。シートを書くことを通して、そのとき解いた問題だけでなく、もっと一般的な視点も持てました。方針の立て方や対処の仕方などにおいて、洞察の質も上がって、物事を深く考えられるようになったと思います。

グノーブルの国語

鹿野：かつての私は、「日本語を書くのが面倒くさい」と思っていて、国語が好きではありませんでした。でも、吉田先生に出会って変わりました。

高1の時点で理系に進む意志は固まっていたので、「早いうちに国語をやっておこう」と思って受講し、そこで、吉田先生に出会えました。

* Gnable Sound Laboratory：中1から高3までの6学年すべてにオリジナルの英語音声教材を用意しています。

国公立・私立大学

【座談会出席者】(五十音順、本文中敬称略) ※その他の医学部合格大学

Part 1



いづか ゆりこ
飯塚 友理子さん
(東北大・吉祥女子)



かわの えり
川野 笑里さん
(千葉大・吉祥女子)
※国際医療福祉大



さいしょうじ ゆみ
最勝寺 裕美さん
(横浜市立大・桜蔭)
※東邦大



やまぐち めぐみ
山口 恵さん
(東京医科歯科大・桜蔭)
※東京慈恵会医科大



よしかわ ゆか
吉川 優香さん
(筑波大 [公募制推薦]・
日本女子大学附属)

Part 2



あきもと けんすけ
秋元 賢介さん
(東京医科歯科大・暁星)
※順天堂大



いんま あかり
因間 朱里さん
(東京医科歯科大・桜蔭)
※慶應義塾大、東京慈恵会
医科大、順天堂大 (特待)



うちだ りお
内田 莉央さん
(千葉大・小石川中等教育)
※順天堂大



たかはし かずこ
高橋 和子さん
(順天堂大・光塩女子学院)
※千葉大、昭和大、日本医科
大、東邦大、防衛医科大



たにがわ としき
谷川 俊樹さん
(北海道大・海城)
※順天堂大



もり としひろ
森 俊博さん
(東京医科歯科大・筑波
大学附属駒場)
※慶應義塾大、東京慈恵会
医科大



はまだ のぶひこ
濱田 伸彦さん
(東大理Ⅲ・駒場東邦)
※慶應義塾大、昭和大 (特待)

先生はフレンドリーで面白く、とても親身に教えてくださいました。先生の授業を受けたかったから絶対休まなかったし、予習復習にも力を入れました。先生に「伸びている」と思ってもらいたくて、答案にも面白いことを書こうとがんばりました。その成果が表れて、1年で古文が得意になりました。

高2、高3では、季節講習で東大国語を受講しました。

他の塾や参考書では、「そんなの絶対を書けそうにない」という解答例が多く見られます。吉田先生は、受験生の目線で、「この文章のここからそのまま言葉を利用しました」とか「ここに着目したからこの言葉遣いになっているんです」という説明をしてくださいます。実際に自分で答案を作れなくても、「ここに着目すれば良かった」とか「ここをもっと強調して答えを作れば良かったんだ」とか、次にどうすべきかが分かりました。先生はいつも、私でもがんばれば手が届きそうなレベルで解答例を示してくださったので、お手本にしやすいです。

今年の東大入試は、古文で『源氏物語』が出題されました。先生の勧めで『源氏物語』の漫画を全巻読んでいたので、ストーリーはしっかり頭に入っていました。そのお陰で、東大入試でも古文は点が取れていたと思います。

後輩へのアドバイス

伊藤: 英語に関しては、グノを信じるべきです。他の参考書などには手を出す必要はありません。先生の言う通り、音読をして、予習と復習もきちんとやれば、必ず英語力が上達します。英語はグノだけで大丈夫です。

鹿野: グノは素晴らしい塾だし、先

生方も最高です。

でも、自分から積極的に授業に参加したり、先生のおっしゃることを主体的に実行するべきだと思います。グノは、向かっていけば向かっていくほど自分に返ってくるものがある塾です。だからこそ、自分からコミットして欲しいと思います。

平岡: グノは、受験勉強以外からも得られるものが多い塾です。先生方の話から興味の幅を広げたり、自分自身を見直すきっかけを得たりと、たくさんのことを吸収してほしいです。グノで学んだことは大学進学後も生きてくるはずですよ。



平岡 健央さん (理Ⅰ・小石川中等教育)

11期生 合格者インタビュー

国公立・私立大学 医学部

— Part 1 —

普通の解説は、受験に出そうなことに焦点が当たると思います。でも、グノの解説は、英文をより味わったり、筆者の深い考えや思いを読み取ったりすることに焦点が当たっていました。解説を聞いて、教養も深められたと思います。

川野 笑里さん (千葉大・吉祥女子)

入塾のきっかけ

川野：兄*1がグノに通っていました。その兄が「授業が分かりやすく、何より楽しい」と言っていたのを聞いて、私も高1の春に英語と数学でグノに入塾しました。

山口：私の場合は、グノに通っている友達からの勧めでした。これがきっかけで高1のフレッシュ講座*2から参加して、そのまま入塾しました。春から数学、秋から英語を受講しました。講習の雰囲気が良かったので、他塾と比較することもなくグノに決めました。

最勝寺：私も、他塾との比較をせずに、中3の冬に入塾しました。私の学校は、多くの人たちが中1から塾に通います。でも、私は塾に通ってなくて、高1になる前に「そろそろ塾に入った方がいいかな」と感じました。そこで、好きな英語を伸ばすための塾を探しました。グノに決めた理由は、部活の先輩*3が『グノレット』に載っていて親近感を抱いたからです。

飯塚：私も、他塾を考えないで、高2の4月から英語で通い始めました。学校の勉強だけでは物足りなくなっ

たとき、「もっと英語を伸ばせる塾がないかな」と思って、自分でネットを検索しました。グノのHPの合格体験記に、「グノ大好き」とか「英語が楽しくて、スラスラ読めるようになった」とか、たくさんの喜びの声があって、それが入塾の決め手になりました。



飯塚 友理子さん (東北大・吉祥女子)

吉川：私は高2の春に大手予備校からグノに英語で移ってきました。前の予備校は授業が一方向的でした。先

生が生徒のことを全然見ていないし、計画通りに授業が進むだけだし、定刻通りにキッチリ終わります。画面越しに授業を受けているような感じがあって、「あまり生徒のことを大切に思っていない」という印象が強かったです。

それが肌に合わなかったので、自分が気に入りそうな英語の塾を他にもかなり回りました。

グノの授業を受けてみて、ようやく受けたい授業にたどり着いたと思いました。グノに通っている人たちが皆集中していて、「意識もレベルも高い」と思いました。

飯塚：確かにグノはレベルが高いですね。私は「英語が得意」と思っていました。入塾直後はa3*4からのスタートでした。自分が分からなかったところを他の生徒が答えているのを見て、「ああ、すごいな」と感心していました。そういう経験が、「まだまだ上があるんだな。がんばろう」という向上心につながりました。

最勝寺：同じ学校でグノに通っている友達は、英語ができる子ばかりでした。私はだいたいa1にいましたが、一度aに振り替えて出席したと

いづか ゆりこ 飯塚 友理子さん (東北大・吉祥女子) やまぐち めぐみ 山口 恵さん (東京医科歯科大・桜蔭) ※東京慈恵会医科大

かわの えり 川野 笑里さん (千葉大・吉祥女子) ※国際医療福祉大 よしかわ ゆか 吉川 優香さん (筑波大[公募制推薦]・日本女子大学附属)

さいしょうじ ゆみ 最勝寺 裕美さん (横浜市立大・桜蔭) ※その他の医学部合格大学

●PDFフルバージョンでは、「医学部を志望した理由」、「グノーブルの評判」「医学部の面接」もお読みいただけます。
www.gnoble.com/gnolet19/



き、周りの皆が出来過ぎて悲しくなりました(笑)。でも、そのときの気持ちさがさらにがんばるモチベーションになりました。

川野：私はa4から始めて、最後はa1まで上がれました。私は英語は好きなんですけれど、a1でも、私よりも英語ができる人が何人もいました。その上にaがあることに對して、私は純粋に「すごい」と思っていました。こうした憧れの気持ちも勉強では大切です。

山口：私はa2から始めてa1の期間が長くて、最後はaまで上がりました。

グノの優秀な人たちは、他塾の優秀な人たちと雰囲気が違っていました。桜蔭の優秀な人たちのうち、他塾の人たちは必死でがんばって何とか成績を維持している感じで、苦しうでした。一方、グノの友達はあまり苦労している感じがなく、楽しんでるのに成績が良かったです。

グノーブルの英語

吉川：他塾は予習が前提なので、忙しくて予習ができなかった日は、授



川野 笑里さん (千葉大・吉祥女子)

業がすべて無駄になってしまいます。

グノは授業の最初に演習をするのが良かったです。しかも、その場で添削していただけるので、「自分がどうやってその答えにたどり着いたのか」を鮮明に覚えていて、添削後の答案を確認しながら「思考回路のどこが悪かったのだろう」と分析できます。

山口：予習中心の授業では、予習で理解できてしまうと授業が暇になります。逆に、予習で疑問点が出てきても、授業までに時間が空くので、何ができなかったのが分からなくなってしまいます。グノにはそうしたロスがありませんでした。

飯塚：授業中に演習してすぐ解説を聞けるので、理解が抜群に深まるのは確かですね。

それから英文がタイムリーで、前の週に起きた出来事のニュースがすぐ教材になるのも魅力的でした。お陰で、興味の幅が広がりました。受験勉強の一環でしかなかった英語の勉強が、将来にも生きる勉強に変わりました。グノの英語は受験勉強という感じがしませんでした。

川野：普通の解説は、受験に出そうなことに焦点が当たると思います。でも、グノの解説は、英文をより味わったり、筆者の深い考えや思いを読み取ったりすることに焦点が当たっていたと思います。解説を聞いて、英文の内容にちょっと感動できるようになったことも何度もありました。背景知識も解説していただけたので、教養も深められたと思います。

英単語の解説も、英文を深く読むためのものだったので、語源から説明が始まって、日本語とは違うイメージも先生が体も使ってやってみせてくれたので、すごく覚えやすかったです。私はもともと市販の単語帳を使った暗記は大の苦手だったのですが、グノのやり方だと、とて

も覚えやすかったです。

最勝寺：先生が当ててくださるのも大きかったです。当てられる緊張感があると眠くなくなって、授業に集中して取り組みます。他の人の答えが楽しかったり、「へー」と感心したり、びっくりさせられることもあります。授業が生き生きとしてきます。



最勝寺 裕美さん (横浜市立大・桜蔭)

山口：他塾の授業は、一方的に講師が話をして、生徒たちはただ機械的にノートを取っているだけでした。グノの授業では、「知らなかった人はしっかりノート取ってね。分かっている人は黒板見ながらどんな展開になるか先取りして」などと先生がおっしゃいます。そのため、自分の分かることと分からないことを考えながら授業を受けられます。

黒板の展開を見ているだけでも自分の頭が動き出して、「勉強になっているな」という実感がありました。川野：学校の授業では、和訳のときにきちんとした日本語の文にして読まないといけなかったので、細かい部分まで気が回らなくて、当てられて答えた後に「あそこはこうだったな」と後悔することがよくありました。

*1 川野 潮さん。Gno-let vol.17 合格者インタビュー「東京大学 文系 Part 1」にご出席いただきました。
*2 新高1生対象の春期講習。
*3 由鎖 遥さん。Gno-let vol.11 合格者インタビュー「医学部」にご出席いただきました。
*4 当時の通常授業は、a (最上位)、a1、a2、a3、a4の設定。6月以降a5増設。

グノの授業では、英文を訳す場合、上手い日本語に直すことよりも前から解釈することに重きが置かれていました。英語の語順のままやっていた方がいいので、変な緊張感がありませんでした。英文を前から読んでいく授業スタイルが私には合っていました。



山口 恵さん (東京医科歯科大・桜蔭)

最勝寺：英文を前から理解するようになれば、よけいなことを考えなくて済む分、英文の内容が頭にすっと入ってきます。結果として速く読めるようになりました。長文問題を解く時はいちいち考え込んでいると時間が足りなくなるので、グノの読み方は効果的です。

飯塚：グノに入ってから、返り読みをしなくなったので、英文を英文のまま理解できるようになりました。普通の英文ならスラスラ読めるので爽快感があります。

吉川：私はもともと英語の本をたくさん読んでいました。そのため、グノに入る前から速読は割と得意でした。グノでは、読解と並行して英文法を教えてくださいるので、そのお陰でさらに読むスピードがアップしましたし、正確な読み方ができるよう

になりました。

山口：私も文法の授業のお陰で、英文が読みやすくなりました。書くときにも文法を意識できるようになりました。

グノの文法の授業は、文法問題を解くためというより、英文を語順のまま処理していくために、また、ネイティブの感覚が私たちにも感じられるように工夫されていました。

「前から読むのが良い」とか、「英語で考えながら書くのが良い」ということはグノに入る前から分かっていたのですが、実際に授業を受けて、「こういうことなんだ」と実感できるようになりました。

英語が伸びたと実感したとき

吉川：一番伸びたと思ったのは高2の夏です。入塾直後のクラス分けテストでは $\alpha 2$ になったことがとてもショックでした。だから、必死で勉強して、 $\alpha 2$ から α まで一気にクラスアップしました。このとき先生に何度も相談して、音読の方法についてアドバイスをいただきました。それをふまえて音読とGSL*のシャドーイングに力を入れたら、英文の内容がスムーズに頭の中に入ることになって、そこからぐんと伸びました。

飯塚：入った当初は $\alpha 3$ でした。その直後のテストで α に上がれましたが、高2の4月から12月まで α の基準点ギリギリで、クラスの人たちの高いレベルについていくのがやっとでした。でも、音読を10か月くらい続けていたら基準点+20点くらい取れるようになりました。

グノのクラス分けテストは、問題文が難しいのに時間が短くて、すごく厳しいテストだと思います。知識量だけでは点が取れないので、「音読を続けて良かった」と手応えがあ

り自信につながりました。

最勝寺：私は高1のとき、グノに入塾して早い段階で伸びを実感しました。毎回の授業でディクテーションの「お帰り問題」があって、その対策をしていたら成績が上がりました。

対策はやはり音読です。音読だけでちょっと不安になることもありましたが、「先生がお勧めするんだから大丈夫」という気持ちで音読を続けたら、結果がついてきました。

山口：私は逆に、入塾直後は音読をしていませんでした。授業を受けて宿題に取り組むだけで学校や模試で好成績を維持できていて、問題を感じていなかったからです。

でも、高2の夏頃に成績の伸びが頭打ちになりました。私をグノに誘ってくれた友達はずっと音読を続けていて、その子と自分を比べたとき、英文を読むスピードが決定的に違うことに気づきました。私は読むのが遅かったのです。それが悔しくて音読を始めたら、英語の成績がまた伸び始めました。

川野：高1でグノに入りましたが、音読をあまりしていませんでした。それでも、高3の夏前に $\alpha 1$ にクラスアップして授業を受けて、「今の



吉川 優香さん (筑波大[公募制推薦]・日本女子大学附属)

ままではついていけない」という危機感を覚えました。それからです、毎日音読するようにしたのは。そうしたら高3の11月頃にやっと、「英語のまま読んでいる」と思えるようになりました。

私は、朝起きてすぐ、朝食前の時間を使って、家の廊下を歩き回りながら音読をしていました。歩き回りながらの方が歴史などの暗記物を覚えやすかったのも、音読も同じやり方で取り組みました。

山口：私は寝る前に音読をしました。それから、「勉強やりたくないな」と思ったとき、勉強への導入として音読を利用していました。

最勝寺：私も、他の科目の息抜きとしても音読をしました。机に向かってガリガリ問題集を解くだけの勉強だと苦痛ですが、音読は楽しかったからです。

飯塚：私は、毎日お風呂で30分音読すると決めていました。それから、通学時には、イヤホンでGSLを流しながらシャドーイングしていました。英文を暗記するくらい何度も聞きました。

吉川：私も基本的には通学時間を使いました。駅から学校までの歩いている時間や満員電車で立っている時間に、スマホでGSLを聞いていました。机に向かっている時間は数学などに費やしたかったので、スキマ時間に英語をやるようにしました。

グノーブルの数学

山口：私は、高1のときに数学のフレッシュアップ講座*を受講してそのままグノに入塾しました。当時は数学が一番苦手で、「伸ばすならとりあえず数学」と思っていました。英語にはそんなに問題意識がなくて、最初は英語を受講しませんでした。

グノの数学は、ただ問題を解くだ

けでなく、「なぜそういうアプローチをするのか？」を詳しく教えていただけるのが魅力でした。

川野：私も高1から数学を受講しました。私は数学がとても苦手で、兄は数学がとても得意でした。その兄がグノの数学を絶賛していたので、迷わず受講しました。先生が一人一人の生徒の癖などを把握してくださいます。それに基づいたアドバイスは本当に的確でした。



飯塚 友理子さん (東北大・吉祥女子)

それから、セルフチェックシートが役立ちました。数学に苦手意識があった分、書くべきことはたくさんありましたが、「全部埋めるまで書こう」と思ってシートを埋めていく中で、自分のミスを分析したり見つけ直したりする習慣が身につきました。自分の癖に気づくきっかけになって、失敗した経験を次に活かせるようになっていきました。

グノの先生のアドバイスも的確でしたけれど、自分で自分のことに気づけるようになったのは大きかったと思います。

山口：最初はセルフチェックシートに抵抗感がありました。「どうしてこんなことやらなきゃいけないの？」と不満でしたが、書いているうちに慣れていって、抵抗感もなくなりしました。それと同時に、自分の

できないところを見つめるきっかけとして、セルフチェックシートを活用できるようになりました。

数学が伸びたのは直前期です。高3の秋頃に繰り返し復習するようにしたら、解法を選ぶときに自信を持てるようになりました。

川野：私は数学が得意になったわけではないし、受験直前も解けない問題がたくさんありました。クラスの人たちのレベルも高くて、私は全然できない方だったと思います。でも、学校の授業や模試では数学の成績の伸びを実感できました。

グノーブルの国語と小論文

最勝寺：医学部志望者の多くがセンター試験の国語で苦しみます。センターの国語は1問7、8点で、1問落とすことが命取りになるからです。

私はセンターでしか国語を使いませんでした。理科が忙しくない高1のうちに古文と漢文を固めようと思って国語を受講しました。高1や高2で受講できるグノの講座は、医学部志望者にもぴったりの授業でした。

吉川：グノの小論文では、「マトリックス」に従って自分の考えを組み立てていきます。「マトリックス」は、上手く文章を書くための型です。

最初に現状を考えて、次にそれを一般化して、最後に「未来はどうなるか？」そして「問題を解決するにはどうすべきか？」を考える、という順番で組み立てていきます。実際に「マトリックス」を使ったら、思ったよりも上手く書いてびっくりしました。

私は、本番で小論文を使いませんでした。でも、グノで習得した意見の組み立て方は面接で活かしました。

最勝寺：グノの小論文は書き方を教えてくれるので、内容以外のところ

で悩まなくて済みます。そのため、内容を充実させることに集中できました。

大学の中には、小論文を重視している大学があるかもしれません。そういう可能性を考えれば、小論文を練習しておくといいです。受験会場できなり1,000字以上書くとなると、ほとんどの受験生は思ったほど書けないはず。普段から定期的に練習しておくことをお勧めします。

グノーブルの先生

最勝寺：グノの先生方は、初回から生徒全員の名前と顔を覚えてくださって、しかも授業中に当ててくださいます。それがうれしくて、「がんばろう」というモチベーションにつながりました。もちろん、自信がない問題には「当てられたくない」と思いますが、私は間違えることにそこまで嫌な思いはありませんでした。



川野 笑里さん (千葉大・吉祥女子)

吉川：私も当ててもらえるところが良かったと思います。自分が当てられるのを待っていたとは言えませんが(笑)、他の人が先生とやり取りしているのを聞いていろいろ学んでいました。「ここまで考えられなかつ

た自分はヤバイ！」と、よく奮起材料にしていました。

飯塚：私は当てられたくてずっと1列目に座っていました(笑)。

それから、私はよく質問するタイプでしたが、どの先生もどんなに質問が長くなってもつきあってくださいました。他塾に通う友達は、「質問するのは授業で理解できていないからだ。それならクラスを落とせ」と講師に言われたらしくて、「怖くて質問できない」と言っていました。それに比べて、グノは質問大歓迎な雰囲気だったので、私はとても感謝しています。

先生に関しては特に印象に残っていることがあります。要約の答案が的外れで点数になっていなくて、すごく落ち込んでいたときのことです。授業が終わると、先生の方から声をかけてくださったんです。私の話に耳を傾けて、励ましてもいただきました。それで気持ちがとても楽になりました。

川野：数学は3、4人の先生方に教わりましたし、英語はa4からa1まで経験しているので、もっと多くの先生方に教わりました。それにもかかわらず、嫌いな先生や苦手な先生は一人もいらっしやなくて、皆尊敬できる方たちでした。

先生方は、英語や数学の知識だけでなく教養も深く、生徒から見ても常に研鑽されているのが感じられました。だからこそ、「自分がサボったら申し訳ない」という気持ちになって、いっそうがんばれました。

山口：グノの先生方は、ご自身が教えている教科が本当にお好きなんだと思います。数学の先生からも、英語の先生からも、それが伝わってきました。学校でもグノ生の間で、先生方のことを話題にしていました。「先生が好きな科目なら、私も勉強してみよう」と科目に好意的になれて、単なる受験科目ではなくなりま



最勝寺 裕美さん (横浜市立大・桜蔭)

した。

それから、他塾では受験直前期になると「合格するようにがんばれ」という話ばかりですが、グノでは直前期でもそういう話があまりありませんでした。むしろ、「合格した後どうするか」という話が多くて、「合格がゴールではない」という先生方の思いが伝わってきました。

グノーブルの柔軟性

山口：他塾だと授業の振り替えができないので、部活を休んで塾に行くか塾を休んで部活に行くかを選ぶことになります。部活を休むと楽しくないし、塾を休むとその単元だけすっぱり抜けて後で苦労します。こうした悩みを解決してくれるのがグノの振替システムでした。学校生活と塾とを上手く両立できるのはグノだけです。

川野：私も同じく振替を利用して、1回も休まずに学校と塾とを両立できました。私の部活は高3の5月まででありましたし、委員会活動で部長をやっていました。そのため、運動会や球技大会の時期は忙しかったり、毎週部会が放課後残らなければならなかったりしました。そういうときは、時間をずらして授業を受けさせ



山口 恵さん (東京医科歯科大・桜蔭)

てもらいました。

最勝寺：グノでは、高2まで前コマと後コマに分かれているので、部活のある人は後コマに出れば授業を休まなくて済みました。塾にも行けるし部活もできるというのはグノ生の特権でしたね。

飯塚：振替の柔軟性という点では、高3の英語の場合、週に5日、毎日開講しているのも良かったです。

吉川：私は推薦入試だったので、学校の成績もかなり必要でした。だから、定期試験の時期は塾の授業を振り替えて、試験勉強に打ち込みました。

後輩へのアドバイス

山口：英語にしても数学にしても、最終的にはグノの先生のアドバイス通りに勉強しましたが、最初からそうしていたわけではありません。英語に関していえば、私は音読が少なかったため、スピードでは最初から音読していた人たちが最後まで追い越せませんでした。この失敗経験から言えるのは、グノの先生の言うことは最初からきちんと聞くべきだということです。

川野：私も同じで、音読を始めるのが遅かったことを後悔しています。

グノを最大限に活用するには音読をきちんとやるのが一番です。

それから、グノは数学もお薦めです。自分の癖を見つめるという習慣が身につけば、数学以外の場面でも応用が利きます。

医学部受験では、センター試験がとて重要。グノには振替制度があるので、それを利用しながら、学校の授業も大切にしたいと思います。

最勝寺：高3になる前に英語と数学を固めるべきです。中3とか、高1とか、早い段階からコツコツ勉強する習慣をつけた方が後から楽になります。そのためにグノの授業を楽しみながら活用しましょう。医学部というと難関のイメージがありますが、私の場合は、早い段階からコツコツやることで上手く準備ができたと思っています。

飯塚：私は、グノで英語を徹底的に鍛えたお陰で、「英語はできる」「英語だけは大丈夫」という安心感を得られました。

本番の入試では、最後の1秒まで諦めずに1点を奪いに行くことが大事です。自信と貪欲さを持って受験を乗り切ってください。

吉川：英語は、一度安定すると成績が乱高下しない科目です。だから、まずは英語から固めてほしいと思います。そして、グノの英語は、受験



吉川 優香さん (筑波大[公募制推薦]・日本女子大学附属)

勉強という枠を超えて、教養を深めるのにも役立ちます。小論文や面接にも生きてきます。受験勉強で視野を狭めるのではなく、グノの授業から興味分野を広げて、学ぶことの楽しさを味わってください。

11期生 合格者インタビュー

国公立・私立大学 医学部

— Part 2 —

「グノの先生は信頼できる」と思ったことも大きかったです。英語の勉強方法にこっちに迷いがあったても、先生から明快な指示がいただけると本当に安心できました。先生方に迷いがないので、僕も迷わずに先生方についていけました。

濱田 伸彦さん (東大・駒場東邦)

入塾のきっかけ

高橋：親の勧めに従って、新中1のスタートダッシュ講座*で英語と数学を受講したのがきっかけでした。

もともと私は算数が苦手だったこともあり、負の概念が入ってくる数学で混乱して、講習3日目くらいで先生に質問しに行きました。このとき「講習に来たばかりの生徒に質問されたら、先生は嫌かもしれない」と思いましたが、そんなことは全くありませんでした。先生がとても優しく丁寧に教えてくださりました。

質問対応だけでなく、先生は生徒の顔と名前をすぐに覚えてくださるので、グノにはとても温かい印象がありました。「ここなら勉強を続けられる」と確信した私は、「グノに通いたい」と親に頼んで、正式に入塾させてもらいました。

森：中学受験が終わった後、僕は何も分からないまま別の塾に入りました。でも、勉強を全然しなかったので落ちこぼれました。中3になって「これはヤバイ!」と焦った僕は、親と話し合いながら塾探しをして、グノの説明会に参加しました。雰囲気が入って、英数でグノに通うこ

とになりました。

グノの授業は、初回の授業で先生が顔と名前を覚えてくださって、アットホームな感じがありました。以前通っていた塾にはそういう感じはなく、放置されると遊んでしまう僕には合いませんでした。一方、グノならサボらずに続けられそうだったので入塾を決めました。

谷川：僕も中1のときから別の塾に通っていましたが、英語があまりにもできなくて、その塾の先生からは



秋元 賢介さん (東京医科歯科大・暁星)

あきもと けんすけ 秋元 賢介さん (東京医科歯科大・暁星) ※順天堂大	たにがわ としき 谷川 俊樹さん (北海道大・海城) ※順天堂大
いんま あかり 因間 朱里さん (東京医科歯科大・桜蔭) ※慶應義塾大、東京慈恵会 医科大、順天堂大(特待)	もり としひろ 森 俊博さん (東京医科歯科大・筑波大学 附属駒場) ※慶應義塾大、東京慈恵会医科大
うちだ りお 内田 莉央さん (千葉大・小石川中等教育) ※順天堂大	はまだ のぶひこ 濱田 伸彦さん (東大理Ⅲ・駒場東邦) ※慶應義塾大、昭和(大)(特待)
たかはし かずこ 高橋 和子さん (順天堂大・光塩女子学院) ※千葉大、昭和(大)、日本医科大、東邦大、防衛医科大	※その他の医学部合格大学

●PDFフルバージョンでは、「医学部を志望した理由」、「先生とのやり取り」、「医学部の面接」もお読みいただけます。
www.gnoble.com/gnolet19/



暗に退塾を勧められていました。それでも半年くらいその塾にしがみついていたのですが、どうにも耐えられなくなって転塾することにしました。

グノには友達が何人か通っていて、全員英語ができていました。彼らが羨ましかったし、「英語さえできれば」という思いもあったので、グノに決めました。当時の僕は、「問題を解くのが英語だ」と思い込んでいて、英語の勉強法がよく分かっていませんでした。そんな僕の思い込みを変えてくれたのがグノでした。

秋元：僕も中学までは他の塾に通っていましたが、「英語の力が伸びない」と感じて転塾を考えるようになりました。そこで、いろいろな塾で体験授業を受けて、新高1の春に英語と古文でグノに入塾しました。

他塾では、宿題を家でやって塾ではその解説です。グノでは、塾に来てからまず問題演習、その場で答案を添削してもらえ、直後に解説を受けられるのでやる気が湧きました。解説も楽しくて充実していて、それまでの塾とは全然異なるグノの授業が魅力的で、強く惹かれました。

古文の授業もインパクトが強くて、思わず引き込まれてしまい、英語と

一緒に継続していくことを決めました。

因間：私も新高1のときに英語で入りました。もともと他塾に入ろうと思っていたのですが、母に「とりあえずグノに行ってみなさい」と言われて、フレッシュアーズ講座*1に参加することになったんです。講習初日、いきなり配られた問題を解いたらポロポロの点数が返ってきました。このことが悔しくて、「ここでもっといい点数を取れるようになりたい」と思ったのが入塾の一番のきっかけでした。

私が行こうとしていたのは、多読できる塾でしたが、グノではそれも叶えられると分かりましたし、添削でバツと目に見える結果がすぐ返ってくるので、それがうれしくてモチベーションアップにつながりました。



因間 朱里さん (東京医科歯科大・桜蔭)

濱田：「塾に行かないと、定期テストはできても、受験では取り残される」という体験談をよく耳にしました。だから、高1のときに「英語の塾に入ろう」と思って、英語が強い塾を探しました。このとき、グノが候補になりました。合格体験記に惹

かれるものがありましたし、グノに通っている友達も「いい塾だよ」と言っていたので、入塾を決めました。

僕の学校では、何人もの先輩たちがグノに通っていて、グノに対する安心感がありました。他塾に通う人たちは、大量の宿題に圧迫されて部活でも辛そうでした。自分もそうなるのは嫌だったので、グノにして正解だったと思います。

内田：中学時代から他の塾に通っていて、他科目には苦手意識はなかったのに、英語だけは本当にできませんでした。高2の夏前、グノのことを見つけてきた母と一緒にグノの説明会に参加して、そこで転塾を決めました。

入室テストで受かったのは、みごとEGGS*2でした(笑)。夏とその先の数週間はEGGSで文法を一通り勉強し直し、高2の終わりにa4*3が上げられました。a4では秋好先生の授業に感動しました。そこからようやく英語が離陸しはじめました。

グノーブルの英語

内田：EGGSで文法の基礎を学んでも、すぐに長文が読めるわけではありません。本当に短い英文でない、その先は頭からあふれ出してしまふ状態だったのです。

読解の秋好先生が、即効性はないけれど確実なやり方として、音読について教えてくださいました。毎回の授業で扱う要約の英文にはGSL*4がついています。それを使って、「耳と口を慣らして何度も音読」ということだったので、物は試しにと思って、家では音読し、電車の中ではGSLに耳を傾けていました。

半年くらいかかりましたが、頭がだんだん英語に慣れてきて、高3の

夏頃にやっと、長文を最初から最後まで読める英語の体力が身につきました。すごくうれしかったです。

それから、私は市販の単語帳がどうしてもだめでした。暗記が苦手なわけではなくて、生物の用語だったら結構簡単に覚えられます。でも英単語だけはお手上げ状態でした。たとえば、exで始まる単語がすべてゴチャゴチャになっていました。



内田 莉央さん (千葉大・小石川中等教育)

そんな私にとって、グノの単語の覚え方に出会えたのは、救世主に出会えたようなものでした。

秋元：グノ以外のどこでも単語帳の暗記が常識だと思います。以前通っていた塾でも、単語帳を暗記してテストというのが当たり前でした。

グノでは、単語帳の暗記は全くありません。語源からどんどん語彙を広げていく方法で単語を覚えていきます。この覚え方は、慣れるととても分かりやすいし応用も利きやすいんです。未知の単語と出会っても、「この語根があるからこういう意味かな?」と推測できるからです。

高2になると単語の勉強がさらに深まりました。このときから、語根

*1 新高1生対象の春期講習。

*2 English Grammar Green Session for newcomers: 英語が苦手になってしまった一般生のための、通常クラスに入る前に英文法の基礎を補完する講座。

*3 当時の通常授業は、a(最上位)、a1、a2、a3、a4、a5の設定。

*4 Gnoble Sound Laboratory: 中1から高3までの6学年すべてにオリジナルの英語音声教材を用意しています。



高橋 和子さん (順天堂大・光塩女子学院)

を中心にして関連語をまとめた「語源ノート」を作り始め、受験本番でもそれを見直していました。

森: 確かに、グノでは単語帳の丸暗記がなかったのが楽でした。授業で扱った文章の単語については、何度も音読していると自然に頭に入り、気づいたら語彙が大幅に増えていました。

高橋: 単語だけでなく、文法でも同じことがいえます。学校では、例文とその説明が羅列された分厚い参考書が配られて、そこに載っている例文を暗記しなくてははいけません。

グノは、そういう暗記ではなくて、文法もしっかり理解することを大切にします。本質を教わっているんだと思えますし、どうしてそういう規則が生まれたのかをグノの先生から聞くと、いつもちょっと感動するので、自然に頭の中に入ってきます。

それから、グノでは大切な文法事項は、Sentences for Workoutとして例文にまとめられていて、中学生の頃に耳で覚えてしまうんです。頭で理解して、体にも馴染ませていきます。

濱田: 僕は、前から読むのが印象的でした。英語を日本語に訳さずに英

文のイメージで解釈していくのがとても新鮮で、できるようになってくると楽しかったです。グノでの経験は、大学受験を超えて役に立つ力になりました。

森: そもそも中3まで英語を全く勉強していなかったので、グノが英語のスタート地点でした。英語を頭から読んで解釈していくやり方に自然に馴染めたのはとても良かったと思っています。「英語はそう読むものなんだな」と思っていたし、英文を前から読む読み方に抵抗はありませんでした。

秋元: 医科歯科大の英文はかなり長いので、英語の語順のまま読める速読力がないと厳しいと思います。

因問: 私も高1からグノに通っているので、グノの英語の勉強スタイルが当たり前だと思っていました。あるとき周りを見たら、ほとんどの人たちが単語帳をやっている、逆に「あれ? どうしたんだろう」と思っていました。

私はもともと英語が一番得意で、学校の勉強では物足りなかったんです。だからといって、ただ多読するだけの塾だと、読みっぱなしで終わってしまい、楽しいだけで何も残りません。

グノは、多読するだけでなくきちんと問題も解くし、先生の深い解説も聞けます。英文の内容を楽しめる一方で、受験を超えてこの後も使える英語を学べ、さらに受験のためにもなる練習も充実しています。

高橋: 頭から読むことと語源のイメージを把握することの2つを駆使すれば、入試問題もスラスラ読めるようになります。実際、私は本番で制限時間よりもかなり速く読めました。

英語の勉強法

秋元: 高2の夏前までは、クラス分けテスト前に復習するくらいでした。でも、それだときつくなってきて、春休み後のクラス分けテストはひどい点数でした。このとき秋好先生に個人的に呼ばれて、アドバイスをいただきました。それからは授業ごとに復習するようになりました。具体的には、毎日音読して、語源ノートも毎回しっかり作りました。

森: 僕も中3から高2までは、テストの前にガッツと勉強しました。文法の小冊子を細かいところまで全部読んで、知らないところをチェックして全部覚え直しました。授業で読んだ英文は全部読み直して、忘れていた単語を確認しました。それだけでもそこそこのクラスにいられたので満足していました。

でも、高3になったら、授業で扱う英文がどんどん難しくなって、「これではマズイ!」という危機感から、毎日音読に取り組むようになりました。英文を覚えてしまうぐらい読み込むと、「英語が得意」という自信を持てるようになって、力もついてきました。



谷川 俊樹さん (北海道大・海城)

谷川: 入塾直後は、「音読なんて読めばいいんだろ」という気持ちで、何も考えずにただ読んでいました。それでも、テスト前にそれぞれ勉強すれば点を取れていたのが、危機感はありませんでした。自分で言うのも変ですけど、僕の当て勘は鋭くて(笑)、それでテストでも点数が取れてしまうんです。

でも、高3でaが上がって、それまでのいい加減な勉強法が通用しなくなりました。授業内演習でボコが出るし、英文のレベルがどんどん上がってついていけない現実に向き合わざるをえなくなりました。このとき、「きちんとやろう」と決意しました。先生から音読のやり方を一から聞き直して、その通りにしたら、授業内演習での手応えが大きく変わっていきました。

内田: 私も音読を続けていました。授業で先生がおっしゃったことを全部プリントに書きこんで、音読するときに一緒に目を通していました。「寝る前に絶対に音読してから寝よう」と決めていて、毎日部屋を歩き回りながら音読しました。

それから、語源ノートも作っていました。そういう勉強を続けていた



森 俊博さん (東京医科歯科大・筑波大学附属駒場)

ら、高3の11月頃によく模試で英語の成績が良くなりました。私の場合、高3の10月頃も英語の成績が振るわず、伸びたのは本当に最後の最後でした。

1年前のレベルを考えると、私は音読をしていなかったら絶対合格はなかったと思います。音読をしているうちに英単語も文の中で生き生きとしてきました。英語のリズムで英語らしい流れで読めると内容を把握しやすいと思います。

高橋: 英語はずっと好きで、ある程度の成績も取れていました。でも、高2の途中から長文をスラスラ読めなくなりました。その頃は進路で悩んでいて、勉強に身が入らなくなっていました。

高3になって授業のレベルが上がったときに、「英語はやっぱ面白い」と思い、もっと楽しむためにがんばろうと思いました。勉強の中心は音読です。特にがんばったのは夏休みでした。夏休み前のタームで扱ったすべての英文を、単語や語源も確認しながら、帰宅後には毎日1時間かけて授業1回分の音読をしました。その復習を3度ほど繰り返した後に受けた夏休み明けの模試で、英語の成績が急激に上がりました。音読の効果を再確認して、その後もずっと音読を続けました。

因問: グノに入ったときから、紙の辞書で単語を調べるようにしました。調べた単語に印を付けると、忘れてしまう単語にはどんどん印が増えていきます。同じ単語に3回以上印が付いたら、それを単語カードに書き写して、電車の中などで何度も見直しました。紙の辞書を引くのが遅いのに、分からない単語が多くて大変でした。でも、引くスピードは上がりました。それに、紙の辞書を引くと、調べたい単語の周りの単語も目に入ってくるので、「こんなのもあるんだ!」と楽しみながら読んでい



濱田 伸彦さん (東大理Ⅲ・駒場東邦)

ました。

濱田: 読解の勉強では、要約を中心にしていました。要約で失敗すると、「今回ダメだったから次回がんばろう」という気持ちになりましたが、問題はどうかんばるかです。

もちろん、英文が読めていないと要約はできませんから、語彙の復習や文法的なことも復習する必要があります。表面的に英文が読めても、筆者の主張と全体構成が分からなければ要約できません。英語の語順のまま読めていないと、筆者の息づかいが聞こえてこないので主張を誤解することすらあります。こっちに十分な教養や思考力が欠けていると、内容がまるでつかめないこともあります。

毎回、先生の解説を聞きながら「英語は奥が深い」と感じしていました。先生のレベルに少しでも近づけるよう、解説を全部吸収してから音読するように心掛けていました。

作文の中心は自由英作文の宿題で、書いた英作文を期限までに自分で手直して、完璧になったものを提出していました。自分の答案についていろいろ考えて、自分がベストだと思うまで添削を繰り返すことで、英

作文を書くのが速くなって質も向上しました。

グノーブルの英語で学んだこと

秋元：医学部専門の塾だと、医学部入試に特化した英文しか扱わないし、医学に関連した単語ばかりを覚えさせられます。グノではそういうことがなくて、いろいろな知識を入手できました。受験期はあまりニュースを見なかったのですが、グノで時事的な情報にも触れられたのが良かったです。



秋元 賢介さん（東京医科歯科大・暁星）

因間：グノでは自然科学系の英文をたくさん扱いましたから、それに対する抵抗がなくなったのは、医学部受験のことを考えても、これからのことを考えてもとても良かったです。グノではエッセーや小説を英語で読む機会も多くありました。英語でものを考えたり感じたりしている人たちの世界観にも触れられて、それがとても面白かったです。特定の分野だけでなくさまざまな分野の文章を覗けて、「英語をこれからがんばろう」と思えるきっかけになりました。

森：振り返って見ると、グノでは高3になってから本当にたくさんの英

文を読みました。英語に対する抵抗感がなくなったお陰で、自分でも興味のあるニュース記事などを英文サイトなどで読むようになりました。読むことに関しては自信がつかしました。

谷川：僕が受験した北海道大学は、英語が難しくないのでも、他の受験生ほど必死に音読しなくても大丈夫です。でも、将来を見据えたとき、英文を速読できるスキルは必須です。だからこそ、グノで音読してきた経験は貴重だったと思います。

グノは、魚をくれるのではなく、魚の釣り方を教えてくれる塾です。大学受験の枠を超えて英語を勉強できたことに感謝しています。

内田：英語がもともと苦手だったこともあり、時間を置くとどんどん英語ができなくなるのが悩みです。グノの教材を全部保存していて、今でもときどき音読しています。

医学の専門に入ると英語から遠ざかると思います。そういうときこそ、英語を学ぶ機会を自分で作っていかないと、また前の状態に戻りそうで不安です。どうやって英語に触れていくかはまだ具体的には考えていません。でも、医師になったら英語を使うはずなので、グノで学んだことを基礎に、これからは英語の勉強を続けるつもりです。

高橋：医学を中心とした自然科学系の英文しか出題されない大学があります。そういう大学を志望する友達は、普通の受験生が使う単語帳以外に、医系の単語帳も一生懸命暗記していて大変そうでした。

グノではさまざまな文章を扱うので、医学の単語もよく出てきます。そのとき、「医学部志望者はこの単語も覚えてね」と先生がおっしゃってくださるので、先生に言われた通りに覚えるだけで充分でした。それに、文脈と語源から単語をみるグノのやり方に慣れていけばスラスラ読



因間 朱里さん（東京医科歯科大・桜蔭）

めるので全然大丈夫でした。

濱田：問題を解くための対策として英語を勉強していると、時間をかけているにもかかわらず、英字新聞すら読めないと思います。大学受験用の単語帳に載っていない語彙は必要だと考えてしまいますし、設問になっているところにしか頭を使わなくなります。

グノの英文では、受験に出そうにない英単語も普通に扱われていました。それに先生はよく、設問に答えるのは二の次で、まずは英文を正確に読もうとおっしゃいます。

これから論文を読んでいくときに必要なことは、自分で問題点を見つけていくことです。そのためには、英文全体を踏まえて誤解も曲解もしないで論点を理解しなくてはなりません。それがなければ、批判的に考えることもできないと思います。グノではこういう姿勢を鍛えていただけたのだと思っています。

グノーブルの数学

高橋：中1からお世話になった^{おだ}櫻田先生はとても面白くて、質問にも快く応じてくださる優しさがありました。宿題をたくさんやって提出すると褒めてくださるので、褒められる

のが好きな私にはうれしかったです。がんばればがんばるほどテストでも点数を取れるようになって、それもモチベーションになりました。とにかく数学が楽しくて、好きで続けてきました。

森：僕も、中3から櫻田先生に教わりました。櫻田先生は、説明会でも強いインパクトがありました。その時の模擬授業を見た僕は、「面白そうだな」と思って数学を受講しました。

通い出してみると実際に楽しくて、毎週ワクワクしながら通いました。問題を授業中に解いてその場で丸を付けてもらう授業でしたが、できたらうれしいし、間違えたら「絶対にできるようにしてやる」という気持ちになりました。積極的に勉強できる環境でした。

解きがいがあって効果が上がるように問題は選び抜かれていたのだと思います。楽しく解いているうちに、計算力を含めてその後の土台ができました。

谷川：僕は高2から高3まで、田部井先生と長澤先生に数学を教わりました。先生の個性としてはかなり違いますが、方法論の確立という点の厳しさは共通でした。

「この問題を解くときにどの方法を使うか、それはなぜか」という解法選択については、グノの数学につ



内田 莉央さん（千葉大・小石川中等教育）

いていくと自信を持てるようになります。

グノの数学には、セルフチェックシートがあって、これには効果があります。普通だと、間違っても「できなかった」で終わり、すぐに正しい解き方に目を移してしまいます。

セルフチェックシートに自分のミス进行分析して書いていくと、「できなかった」という事実を突きつけられます。でも、最初のうちは「ミスした」という程度しか書けません。それが、「どうしてそのミスをしたのか」を突き詰められるようになり、そのうちに自分の傾向が分かり、気をつけるべきことや補うべき課題が明確になっていきます。

グノーブルの古文

秋元：「医学部に行くなら苦手の古文は要らない」と思っていたのですが、よくよく考えたら、国立を志望するのならセンター試験で必須だと気づきました。そこで、「苦手科目は早めに完成させて、後半は理系科目に集中しよう」と思って高1で古文を受講しました。

宣伝文句通り、古文を一年で完成させられました。何よりも授業が楽しかったです。吉田先生がとてもアクティブで、体を使って単語を表現したり古文常識を説明したりと、理解が深まる工夫をしてくださりました。

全然読めなくてつまらなかった古文が読めるようになって、テストの点数も良くなり、それがモチベーションになって勉強を続けられました。

森：僕も高1のときに古文を受講しました。「できる人は高1でグノの古文を習う」という話をどこかで聞いていたことがきっかけでした。確かに、1年間通っただけですが、そ



高橋 和子さん（順天堂大・光塩女子学院）

のときの記憶がずっと残っていて、センター試験で役立ちました。

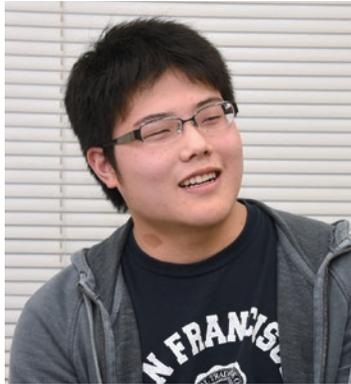
高橋：私も、高1で吉田先生に古文を教わりました。もともと古文が好きで、「楽しいからもっと勉強しよう」と思って受講しました。

学校の古文の授業は、先生が黒板に文章を書いて文法事項を書きこむだけでした。吉田先生の授業は、それだけにとどまりません。先生が古典常識について話してくださったり、イメージにくい単語を現代的なたとえで説明してくださったりして、グイグイ引き込んでくださいました。古文の授業は毎週楽しみでした。

グノーブルの先生

谷川：以前は、塾の授業を受けるとき一番後ろの席に座っていました。壁一枚隔てて見ている感じが好きだったからです。でも、グノの授業を受けたことがある人には分かると思いますが、グノには、圏外にいるのが許されない雰囲気があります（笑）。先生が一番後ろの席にいる僕の名前を呼んで巻き込んでくるからです。

「それならば」と思って一番前の席に座ってみたら、かなり説明のダシに使われました。「これもいいな」



谷川 俊樹さん (北海道大・海城)

と思い、仲間*と3人で英語の時間は常に一番前の席を占拠するようになりまし。自分たちが例にされた解説なら絶対に忘れないですし、自分たちも舞台上上がっている感覚を持てます。

とにかく、生徒が「いっしょに参加している」と思える雰囲気作りをしてくれる先生ばかりでした。

森: 僕も前の方に座ろうとしていましたが、いつも2列目でした。谷川君たちが一番前にいたからです(笑)。

高橋: 私もグノに入った頃から前の方に座っていて、よく当てられたし、自分を例に出されることも多かったです。グノの授業では、巻き込まれていないときがほとんどありませんでした。巻き込まれることは全然嫌じゃなかったし、やる気になれて楽しかったです。

それから、グノの先生方は全員、熱意のある先生ばかりでした。櫻田先生は声がとても大きくて、廊下にも声が響くくらいでした。最初は櫻田先生だけかと思っていたら、他の先生方も意外に声が大きくて(笑)。熱意をひしひしと感じました。

内田: グノの先生方からは、熱いだけでなく、いつも生徒を見守る温かさを感じられました。英語が伸びなくて悩んだ時期、「こんなことで悩

んでいます」と添削用の答案に書いたら、先生がコメントや電話をくださいました。こういう形で支えてただけて、とても心強かったです。

濱田: 復習もしていて懸命に考えているのに、要約で点数が全然取れない時期があって、3週連続で授業が終わってから先生のところに相談に行ったことがありました。その後、満点を連続して取れるまでにレベルアップしたら、答案の下に先生がコメントを書いてくださっていました。ずっと気にかけていただいていたことがうれしかったし、そのコメントの内容から、すごく自信もつきました。

「グノの先生は信頼できる」と思えたことも大きかったです。英語の勉強方法にこっちに迷いがあったても、グノの先生から明快な指示がいただけると本当に安心できました。先生方に迷いがないので、僕も迷わずに先生方についていけました。

森: 僕にも、精神的な面で不安定になったとき、授業後に先生と話したことがありました。先生と話していたら不安が吹っ切れて前向きな気持ちになれました。先生が明快な話し方をしてくださいますし、普段から見てもらえているから、「本当に大丈夫」と思えるのだと思います。

秋元: 僕も先生の温かさに随分救われました。先生に質問したりメールしたりすると、的確で温かい返事をいただきました。実際に相談しないときでも、本当に困ったらグノの先生がいると思えて心強かったし、授業や勉強方法など、全面的に信頼できたので安心して勉強できました。

医科歯科大の過去問も何年も先生に見てもらいました。医科歯科の要約は自分一人だと対策を立てるのが難しいと思いますが、先生からいただける丁寧なコメントを参考にしながら本番への準備が整いました。

因間: やはり、グノの先生は初日か

ら顔と名前を覚えてくださることが衝撃的だし、同時に本当にうれしかったです。

私は、過去問の添削など、演習とは別にプラスαのお願いをたくさんしました。英作文の添削でかなりの無理難題をお願いしたときにも、先生は「いいですよ」と笑顔で応じてくださいました。医科歯科大の英答問題と要約の添削を何年分もお願いしましたが、とても丁寧に見ていただけました。

先生方が私のためにいろいろしてくださいるのがうれしくて、「先生方の期待に応えなきゃ!」というモチベーションになりました。先生方に恩返しするとすると、私にできることはいい結果を持っていくことだけです。だからこそ、「ここで自分が、がんばるしかない!」とっていました。

後輩へのアドバイス

高橋: 医学部受験は一般的に難しいと言われています。でも、グノの教材や勉強方法、熱意のある先生方を信頼して、授業にもきちんと取り組んでいけば、医学部受験を突破できるだけの実力がつきます。1回1回の授業と毎日の復習を大切にしてください。



森 俊博さん (東京医科歯科大・筑波大学附属駒場)

森: グノで伸びない場合、自分がやっていないか、やり方が悪いかのどちらかです。グノを信じてついていけば、絶対に結果がついてきます。特に、音読は絶対に続けてください。

それから、医学部受験の場合、苦手を放置していると合格は遠のきます。苦手科目の勉強は誰でも嫌なものです。がんばって取り組んでください。

秋元: 苦手分野を集中的に勉強するためにも、英語を早めに固めておくことが有利です。英語に関しては、グノの授業をしっかりと受けて、しっかりと復習して、毎日音読すれば、時間はかかっても絶対に成績が上がります。グノを信頼してついていけば大丈夫です。

谷川: 確かに地方国立大は問題の難度は高くありませんが、できる限り高得点を取る必要があります。グノの英語はレベルが高くて「こんなの出ないだろ?」と思うときもありましたが、それにきっちり食らいついていけば、かなりの余裕と自信を持って入試本番に臨めます。

また、私大を受験することになっても、グノに通っていれば英語の対策をしなくて済みますし、大学進学後にグノで培った英語力は役立つはず。グノの高いレベルを「必要ない」と思わないでほしいと思います。

内田: 音読は絶対にやりましょう。それから、千葉大の場合、英語は全学部共通で難しくありません。だから、グノで鍛えていると、センター試験が終わってから過去問に当たったときに安心できると思います。英語については、過去問を早めに解く必要はありません。

濱田: グノは部活と両立できる塾です。お陰で、僕は最後までサッカー部を続けられましたし、部活からもいろいろ学ぶこともできました。

勉強以外の学校行事や部活に打ち込むことを、グノは振替のシステムで支援してくれますし、先生方も応援して下さる珍しい塾です。その環境をぜひ活かしてください。

それから、グノに通っていれば、英語に関しては何をすべきかをいちいち迷わなくて済みます。目の前の教材に真剣に取り組んで、その場できちんと吸収することに集中しましょう。

因間: 塾に通うだけで頭が良くなるわけではありません。塾に入った後、塾をどう活用するかが合否の分かれ目になります。その点、グノの先生方は私たちの要望に真摯に対応して下さるので、とても活用しがいがあります。そういう環境に身を置くのなら、ぜひ自分に合った勉強スタイルを確立してほしいと思います。自分が「これで行く!」と決めた一つのことを最後まで貫いてください。



濱田 伸彦さん (東大理Ⅲ・駒場東邦)

*長井 孝彦さん、藤川 司さん。Gno-let 今号「東京大学 文系 Part 1」にご出席いただきました。

慶応義塾大学 医学部
Gnobleに通って、
本当に良かった!!!!
ありがとう
ございました!!

慶応義塾大学 法学部
直教女学院
Gノは、生徒のモチベーション
高く先生の熱意もすごく伝わる
最高の塾です!!
本当にありがとうございました!!
Gノの日は忘れません!!

早稲田大学 創造理工学部
大寺多摩高校
1年間お世話になりました!!
Gnobleのおかげです!
良い先生、良い授業を
ありがとうございました!

上智大学 国際関係学部
立教女学院
Gノで身につけた英語力は
たまたま受験対策として学ぶ
付いた知識や知識をこえた
本物の力です!!

早稲田大学 基幹理工学部
市川 誠
Gnobleの英語は
受験に好きになれた!
本当にありがとうございました!!

東京大学 理科二類
渋谷暁栄高校
毎週楽しんで通えました
Gnoble、大好きです。
ありがとう!!

東京大学 文科一類
日比谷
Gnobleの英語は受験勉強のみ
のためではなく教養が身についた
と思います。
本当にありがとうございました!!

千葉大学 医学部
駒場東邦高校
Gノ……
神ってる

早稲田大学 基幹理工学部
音読が大好きだー!
Gノで大好きだー!!
4年間ありがとう
ございました!

慶応義塾大学 法学部
Gnobleのおかげで
英語を楽しく学べ
英語を好きになれた
今までありがとう
ございました。

東京工業大学 第2類
麻布高校
継続は、
力になりました。
ありがとう、Gノ!!

東京大学 理科一類
武蔵
人生を決める大学受験で
Gノで勉強できたこと
誇りに思います!

東京大学 理科一類
麻布
英数国物
お世話になりました。
授業が最高の
楽しかったです。

東北大学 医学部
吉祥女子
Gノのおかげで
英語が絶対的
な得意科目に
なりました!!

順天堂大学 医学部
吉祥女子高校
Gノの英語なら
絶対受かる!
本当にありがとう
ございました!

早稲田大学 創造理工学部
駒場東邦
週一の授業が
勉強のエネルギー源では
Gノで学んだことは
一生モノ!!!
本当にありがとうございました!

東京大学 理I
筑駒
数学と物理も楽しい!!
先生お久しぶりよ!!

東京大学 文科二類
開成
Gノの授業は
最高!!

一橋大学 商学部
吉祥女子
Gノを信じて努力
すれば、必ず力が
付きます!!
楽しかったです。
ありがとうございました!!

慶応義塾大学 法学部
田辺調布双葉
Gnoble 本当に最高です!!
お世話になりました!!
英語も小論文も数学も質が高く、
本当に伸びました! 感謝の気持ちで
いっぱいです!!
Gnobleを運んで良かったです!!
ありがとうございました!!!!

慶応義塾大学 経済学部
城北高校
得意を「好き」に
変えてくれる

慶応義塾大学 経済学部
城北高校
Gノの力は
無限大∞

慶応義塾大学 法学部
城北高校
英語が受験科目では
なくなりました。

東京大学 文三
豊島岡女子学園高校
Gnoble大好き!
3年間
ありがとう
ございました!!

東京大学 理I
筑駒
英語も物・化も
最高です!!
物理神、2! 化学もか、2!

国際社会情報学院
女子学院
最後にGノを
信じるの4です。

慶応義塾大学 医学部
英語が「じゃーんらい
ジョー」に、今日は
英語が**大好き**
になりました!!
Gnobleのおかげで
今更にはしゃいで
います!!

東京大学 理科一類
早稲田高校
え? 英語を得意に
したい?
じゃあGノに
お行きなさい
故もあるよ!

東京大学 文科二類
麻布
Let's
音読革命

東京大学 理科二類
開成高校
ほとんどの英語はGnobleで
勉強できました!
今までありがとう
ございました!

慶応義塾大学 理工学部
小石川
この行儀が
楽しいですね!!
1番大好きな塾です!!!

筑波大学 文科二類
雙葉高校
Gnobleに
出会えて良かった!

慶応義塾大学 商学部
世田谷学園 高校
Gノは
最高の塾
です!!

東京大学 文二
麻布高校
Gnoのおかげで
愛まりました。
ありがとう
ございました!!

慶応義塾大学 法学部
白百合学園高等学校
Gnobleの授業は毎回
とても濃く、楽しい時間が
経つのが、あという間に。
勉強の相談にも沢山来て
いただき、先生方には本当に
感謝しています。ありがとう
ございました!

東京大学 文二
栄光学園
Gノに来て、英語が
本当に大の武器に
なりました!
Gノ最高です!!

京都大学 経済学部
小石川
物理も化学も
数学も最高!!!

東京大学 理一
高輪高校
視点が変わる。
あつたごお、おはー!
数学・物理ハイター!

経 大学 文二
Gnobleにいる
から大丈夫です。

一橋大学 経済情報学部
世田谷学園高校
Gノが最高!!
英語・算理も
知識のFオリありがとう
ございました!

東京大学 理一
麻布高校
Gnobleは
神です!!

早稲田大学 基幹理工学部
森村学園 高等部
6年間ありがとうございました。
すばらしい先生方と出会う
ことのできた幸せです。
Gノのおかげで勉強する
のが楽しかったです!
Gノ大好き!!

東京大学 医学部
筑波大学 医学部
Gノのおかげで
受験生活を楽しく
乗り切ることができました

東京大学 理科一類
麻布高等学校
成績が指針になる

電気通信大学 情報理工学部
世田谷学園
熱意あふれる授業と
ありがとうございました!!
授業が楽しくて、流れる
時間は、あという間です。
お世話になりました!!

一橋大学 社会学部
椋蔭高校
Gnobleの英語が
最大の武器に
なりました!
ありがとうございました!

東京大学 理三
開成
部活と学校行事と
勉強を両立するには
Gノが一番!

東京大学 理一
麻布高校
愛がたの今
Gノのおかげで

東京外国語大学 言語文化学部
女子学院
英語が苦手な私に、Gノのおかげで
Gノのおかげです!!
最終までGノを信じて頑張った
結果が良かったです。

東京大学 理二
日比谷
Gnobleのおかげで
受験生活を楽しく
乗り切ることができました

東京大学 理工
栄光学園
Gノ最高!!
音読神!!

東京大学 文科二類
芝高校
Gnoble
よかた下!!

産業医科大学 医学部
光臨女子学院
自分の信念を
最後まで突き通すべく
頑張った下!!

上智大学 英語学科
田園調布双葉
6年間本当にありがとうございました!
ここで学んだことは一生の財産です。
GNOBLE 最高!!
これからも頑張ります!!

東京大学 理科二類
椋蔭
Gnobleを信じて
頑張った下!!

東京大学 文科二類
開成高校
Gノに
思返していただき、
本当にありがとうございました!

グノーブルの授業は、 皆さんと私たちの合作。

一方通行の解説ではないので眠くなることはありません。

- 「家で宿題、塾で答え合わせ」という古いスタイルを打ち破っています。
- 授業中に集中して演習できます。私たちはその答案をその場で添削します。
- 演習直後の解説は、私たちと皆さんがやり取りしながら進めます。
- 皆さんが楽しく効果的に取り組める教材を、毎週新しく配付します。

熱中できる仕組み、質問も相談もすぐにできる環境を実感してください。

大学受験



Gnoble

大学受験 グノーブル

難関大学・医学部を目指す中1生～大学受験生

本物の知的体力がますます求められています。その知の力を伸ばすのに最も大切な要件は、前向きになれる、知的刺激にあふれた環境で学ぶことです。授業形式、教材、そして、教職員の接し方に至るまで、皆さんが意欲的になれる環境を整備し、難関大学・学部を目指す皆さんをしっかりサポートしていきます。

中学受験



Gnoble

中学受験 グノーブル

難関私立国立中受験を目指す小学生

最新の入試傾向に対応したカリキュラム、精選されたオリジナルテキストを基に、経験豊かな講師陣が一人ひとりに向き合った双方向の授業を展開し、難関中を目指す子どもたちを導いていきます。学習したい教科や志望校別のクラスが選択できるなど、中学受験に関するさまざまなご要望にお応えしていきます。

個別指導



GnoLink

個別指導 グノリンク

難関校を目指す小学生～大学受験生

生徒一人ひとりに心を配り、その子の持つ可能性を追求します。学習状況に合わせて、講師1名に生徒2名、あるいは生徒1名の完全個人指導体制を提供します。中学受験グノーブルと並行して通うことも可能です。グノーブルオリジナルテキスト等も併用しながら、個別に対応します。

英会話



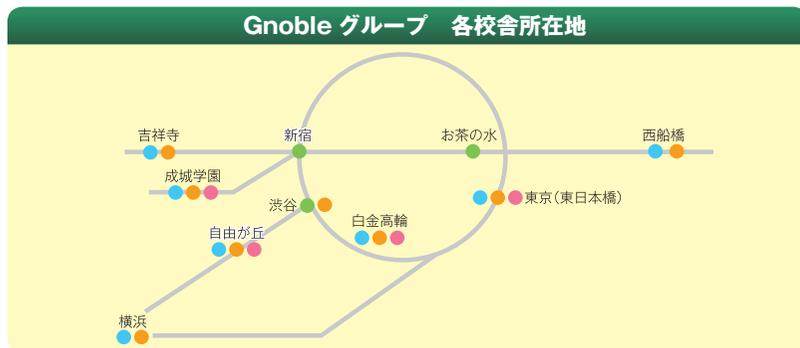
GnoKids

英会話 グノキッズ

0歳児～小学生

さまざまな楽しい英語体験を通して、聞く、話す、読む、書くの4つの力を伸ばします。先生2名に生徒は8名程のクラスで、ネイティブの英語に触れ、親むことができます。ご家庭での学習も配慮した教材で、継続的な学習を無理なく行うことができます。

Gnoble グループ 各校舎所在地



Gnoble
GROUP

大学受験 **グノーブル**
個別指導 **グノリンク**

中学受験 **グノーブル**
英会話 **グノキッズ**

グノーブル総合案内

www.gnoble.com